

西之表市多世代交流施設整備

基本構想・基本計画



西之表市

[令和7年3月]

令和6年度西之表市教育交流施設整備基本構想・基本計画策定業務

§ 01. 本事業の目的	P. 0 1
§ 02. 本事業の背景	P. 0 2
§ 03. 基本構想・基本計画の位置付け	P. 0 4
§ 04. 施設コンセプト(目指すべきあり方)	P. 0 5
§ 05. 整備する機能	P. 0 6
§ 06. 建設候補地の選定	P. 0 9
§ 07. 施設整備方針・規模の想定	P. 1 3
§ 08. 配置・ゾーニングの考え方	P. 2 2
§ 09. 事業手法の検討	P. 2 4
§ 10. 概算事業費の検討	P. 2 7
§ 11. 事業スケジュール	P. 2 8
■資料編	
§ 01. 市民アンケートの結果	P. 3 1
§ 02. 市民ワークショップの結果	P. 4 9
§ 03. 西之表市立図書館の概要	P. 7 3
§ 04. 西之表市立図書館の利用者アンケートの結果	P. 7 9
§ 05. 建設候補地の比較	P. 9 5

§ 01. 本事業の目的

(1) 本事業の目的

住民と共に作り上げる「住民が幸せを感じるまち」の実現

- 本市では、第6次長期振興計画後期基本計画において、将来像である「人・自然・文化—島の宝が育つまち」のキャッチフレーズを掲げ、本市に住むあらゆる世代が楽しく豊かな生活を営み、安心して住み続けることができる持続可能なまちを形成するため、様々な施策に取り組んでいます。
- その一環として「人にやさしい社会づくり」をテーマに、現在の図書館などの社会教育関連施設や子育て・高齢者支援機能が抱える課題抽出と、これらの集約化による多世代交流施設整備の可能性について、市民アンケートの実施や市役所庁内の中堅職員による検討・協議を重ねました。その結果、「住民と共に作り上げる「住民が幸せを感じるまち」」の実現を目指し、多世代交流や教育交流の施設整備事業（以下、「本事業」という。）としての検討をスタートすることになりました。
- この基本構想・基本計画（以下、「本計画」という。）は、本事業における建設候補地・整備機能・配置計画・施設規模などの考え方を整理し、次年度以降の整備事業実施における方向性を位置付けるものです。

(2) 目的を実現するための具体的な方針

① 郷土への愛着を持って、生きがいを感じる環境や機会の提供

本市の子どもたちの「種子島が好き」という気持ちを育むために、西之表市の歴史と文化に慣れ親しむことができ、種子島の良さを再発見することができる場所や、年齢を問わずに自身の興味関心や必要性に応じて学べる環境を計画します。

② ふるさとで子育てできる環境の提供

市民の結婚、出産、子育ての希望を叶え、安定した子育て環境を構築するために、地域全体で子育てしているという安心感を与え、孤立しない子育て環境を整備します。

③ 高齢者を支える、高齢者が支える「地域力」の強化

これまでの西之表市を支えてきた先輩方に自分の地域で安心して暮らしていただくために、地域で支える仕組みづくりや環境整備に取り組むことで、高齢者がいきいきと自分らしく生活し、時には自らが「先生」となり「支え手」となることで多世代が交流できるような場づくりを推進します。

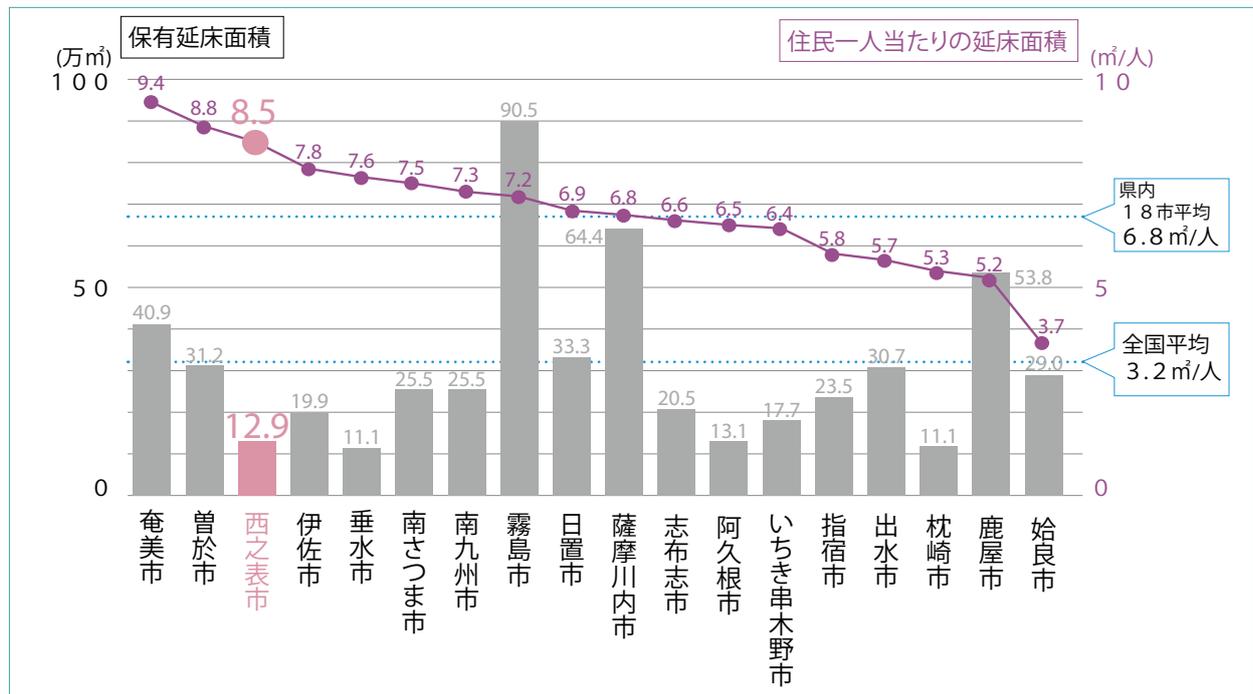
§ 02. 本事業の背景

(1) 本事業の背景

長期的な視点を持って公共施設の更新・統廃合を図る。

- 本市では、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことを踏まえ、運営・維持管理に掛かる財政負担を軽減・平準化することを目的に、「西之表市公共施設等総合管理計画」(R6.5月改訂)を策定し、長期的な視点をもって公共施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うこととしています。

■公共施設の延床面積と市民一人当たり床面積の比較（西之表市公共施設等総合管理計画より）



- 本市の公共施設延床面積は、約12.9万㎡で、鹿児島県内の市（鹿児島市を除く。）と比較すると保有総量は少ないです。（2019年度時点）
- 一方で、市民1人当たりの延床面積は約8.5㎡/人となっており、県内18市の平均（6.8㎡/人）を上回っています。
- 市民1人当たりの施設保有量が多いことは、施設更新の際に、将来世帯の負担が大きくなることを意味しており、本市の人口動態を見据えた適正化を図る必要があります。

■公共施設保有量の目標（西之表市公共施設等総合管理計画より）

2017～2056年（40年間）で、現状の **25%** 以上の削減

(2) 本事業における計画上のポイント

- 本事業は「西之表市公共施設等総合管理計画」を背景として、市内の老朽化する施設の統廃合・更新を図り、これからの本市のまちづくりの一翼を担う事業として計画します。

①老朽化する公共施設の更新・集約化

西之表市立図書館・榕城児童クラブ・子育て支援センター・勤労青少年ホームなどの老朽化する公共施設の更新、および低・未利用となっている市有地等の活用による集約化を計画します。



<市立図書館・榕城児童クラブ・子育て支援センター>

建築年度：1964年

築年数：61年

面積：1323.32㎡

*旧西之表地方合同庁舎の建物を活用



▲市立図書館



▲榕城児童クラブ



▲子育て支援センター



<勤労青少年ホーム>

建築年度：1974年

築年数：51年

面積：660.69㎡

主な利用：集会・各種講座・レクリエーション等



▲娯楽・談話室



▲講座室



▲集会・運動場

②公共サービスのアップデート

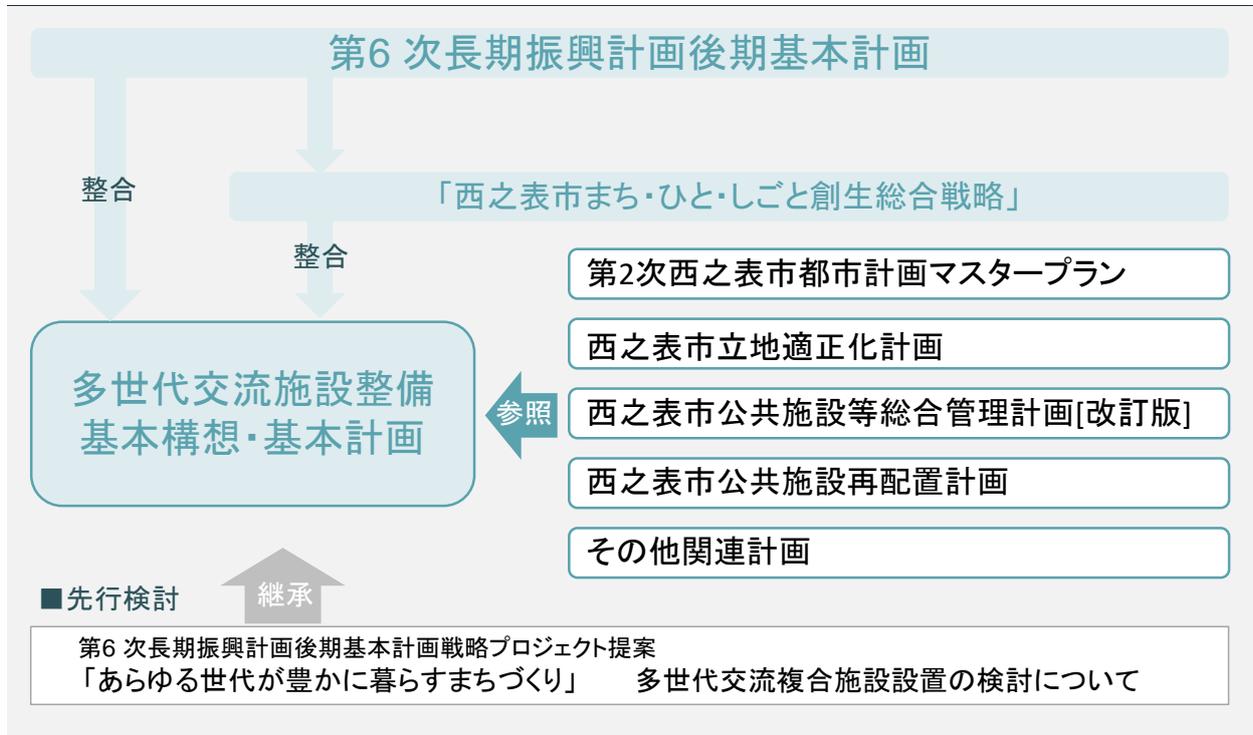
老朽化する公共施設の統廃合・更新を機会として、新たな市民ニーズや最新の事例等を参照しながら、新たな公共サービスの提供を計画します。

③これからの西之表市のまちづくりの一翼を担う

新しい公共施設の特性を踏まえながら、都市的観点でまちづくりを再考する契機とします。また、官民連携による持続可能な運営手法や、他事業との連携や役割分担を考慮することで、これからの西之表市のまちづくりの一翼を担う施設として計画します。

§ 03. 基本構想・基本計画の位置付け

- 本計画は、「第6次長期振興計画後期基本計画」の基本理念のもと、「西之表市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と整合を図りつつ、本市のまちづくりや公共施設計画に関連する諸計画に沿った多世代交流施設整備の方向性について定めるものです。



▲本計画の位置付け

■公共施設の事業プロセスと基本構想・基本計画の位置付け

- 公共施設の事業計画において、「基本構想」および「基本計画」は事業発案段階に位置するものであり、先行する検討内容をより具体化し、その後の事業化に向けた基本方針を定め、事業者選定の基礎となる水準を取りまとめるものです。

ステップ		主な検討項目	
Step1	準備段階 本市の魅力や課題、事業の方向性等の整理	先行検討 など	・魅力と課題の分析 ・目指すべき将来ビジョンの導出 ・職員/市民ワークショップ など
Step2	事業発案段階 事業の基本構想、事業化に向けた計画策定	基本構想・基本計画	・現況分析 ・市民ニーズの確認 ・導入機能の検討 ・関係者ヒアリング ・民間事業者との対話 ・事業手法の整理 など
Step3	事業者選定段階 事業者募集の準備、選定作業等の実施	プロポーザル・入札など	・募集要項の作成 ・事業契約(案)の検討 ・要求水準書(仕様書)の作成 ・選定委員会の運営 など
Step4	事業実施段階 施設設置や事業開始準備	基本設計・実施設計 建設工事・施設運営	・施設の設計および施工 ・モニタリングの実施 ・住民説明会の開催 ・運営開始準備 など

▲公共施設の事業プロセスにおける基本構想・基本計画の位置付け

§ 04. 施設コンセプト (目指すべきあり方)

(1) グランドコンセプト

みんなの居場所となり、市民のくらしを豊かにする公共空間



- 本市における多世代交流施設のあるべき姿として、「みんなの居場所となり、市民のくらしを豊かにする公共空間」の実現を目指します。
- そこでは、子どもから大人まで多世代が集い、個人やグループなどで思い思いの過ごし方をしたり、新たな人や知識との出会いを楽しんだりすることで、西之表市で心豊かにくらすことを世代を超えて共に分かち合っているイメージです。

(2) 基本方針

グランドコンセプトの実現のため、以下の4つを基本方針とします。

基本方針①：市民に愛され、みんなの居場所となる施設づくり

- 世代を超えて広く市民に親しまれ、目的に関わらず滞在できる施設を整備します。
- 本施設での生活や活動が“ふるさとの思い出”となり、種子島の子どもたちの郷土愛を育む風景や交流シーンが生まれる空間を整備します。

基本方針②：市民の安全・安心を守る空間づくり

- 誰もが安心して安全に利用できる施設づくりを目指します。
- 災害時の避難場所として市民の命を守る機能を整備します。

基本方針③：地域の自然が息づく環境づくり

- 周辺環境と調和し、地産材の活用や、様々な環境配慮の工夫を検討するなど、環境負荷の小さい施設を目指します。
- 永く使用する施設として耐久性やメンテナンス性に配慮した施設を目指します。

基本方針④：地域の手で支える運営体制づくり

- 持続可能な施設運営のために、地元でできることは地元が行い、できないことを外部に頼る、地域の手で支える運営体制づくりに取り組みます。

§ 05. 整備する機能

(1) 整備する機能

- 本事業の目的と背景を踏まえ、多世代交流施設が目指すべきグランドコンセプトの実現のために、大きく分けて以下の2つの機能を整備します。

<p>①みんなの居場所となる機能</p> 	<p>・図書館 ・子どもの遊び場 ・みんなの通いの場</p> <p>* その他サービス ・郷土資料/芸術展示コーナー ・各種相談スペース</p>
<p>②市民の暮らしを豊かにする機能</p> 	<p>・榕城児童クラブ ・子育て支援センター ・教育支援センター ・市民レクリエーション(多目的スペース)</p> <p>* その他機能 ・交流広場(防災機能を含む) ・防災倉庫(地下の活用を含む) ・駐車場(防災機能・地域公共交通ターミナルを含む)</p>

(2) 主な整備内容

- 各機能の主な整備内容については下表の通りです。

①みんなの居場所となる機能

機能	主な整備内容
図書館	開架書架 閉架書庫 閲覧室 視聴覚ルーム 学習室 など * 現在の市立図書館を移転リニューアルします。
子どもの遊び場	屋内遊び場 屋根付き遊び場
みんなの通いの場	集会室 レクチャールーム(教養講座室)
その他サービス	郷土資料/芸術展示コーナー 各種相談スペース 飲食コーナー

②市民の暮らしを豊かにする機能

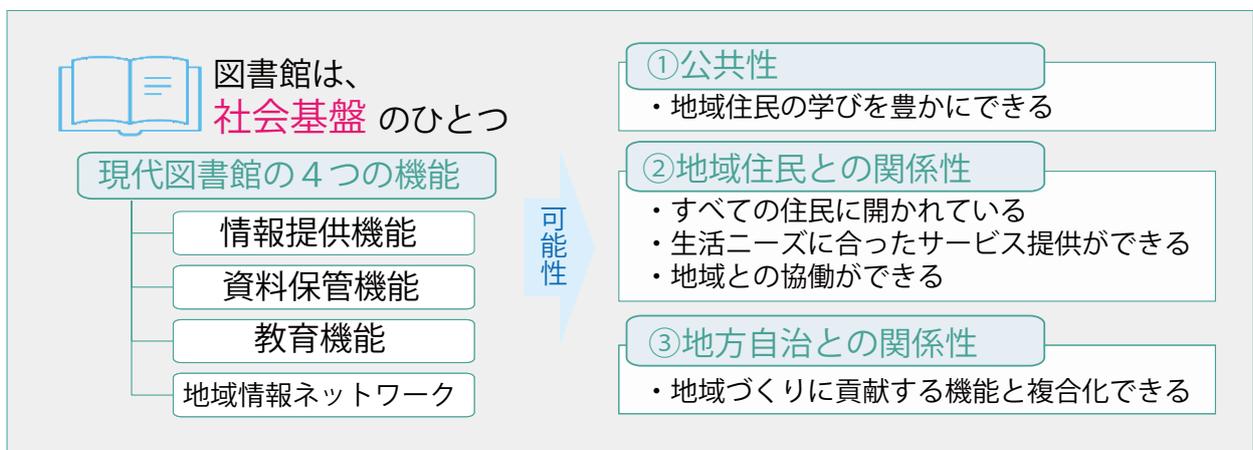
機能	主な整備内容
榕城児童クラブ	高学年の部屋 低学年の部屋 更衣室(児童用) 静養室 事務室 など * 現在の榕城児童クラブを移転リニューアルします。
子育て支援センター	ほふく室 遊戯室 相談室 事務室 など * 現在の子育て支援センターを移転リニューアルします。
教育支援センター	学習室 プレイルーム 相談室 事務室 など *他の室との併用も検討します。
市民レクリエーション (多目的スペース)	健康づくり・レクリエーション室(多目的スペース)
その他	交流広場(防災機能を含む) 防災倉庫(地下の活用を含む) 駐車場(防災機能・地域公共交通ターミナルを含む)

(3) 各機能の連携についての考え方

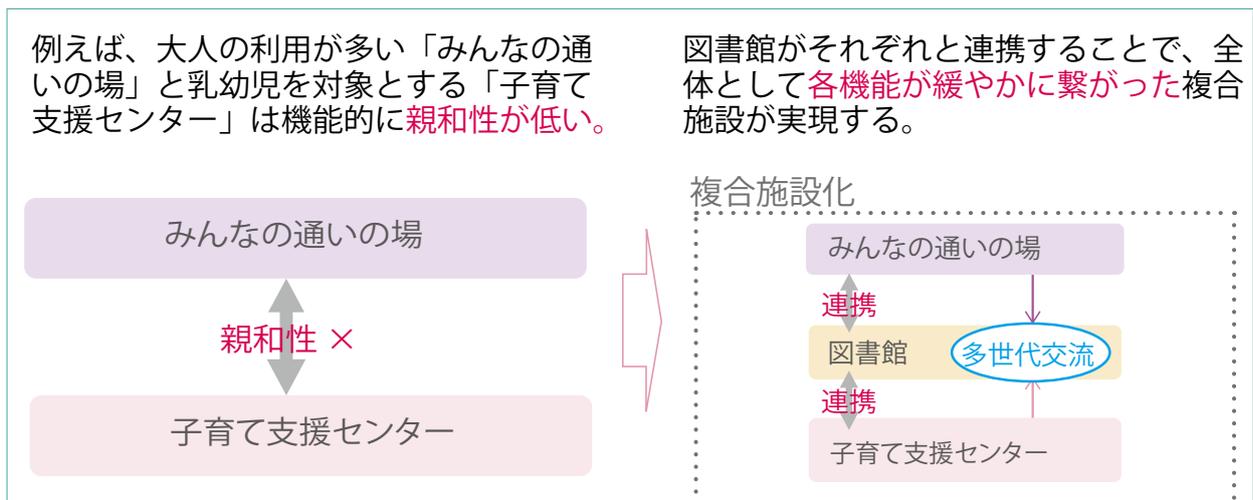
- 多世代交流施設が複合施設として機能するためには、各機能がそれぞれの領域を確立しながらも相互に連携することが重要ですが、機能によっては親和性が低い場合があります。
- そこで、社会基盤のひとつとしての図書館が持つ「様々な機能と複合化しやすい」特性を活かし、図書館を介して全体が緩やかに繋がっているような複合施設の姿を目指します。

■社会基盤のひとつとしての図書館の役割

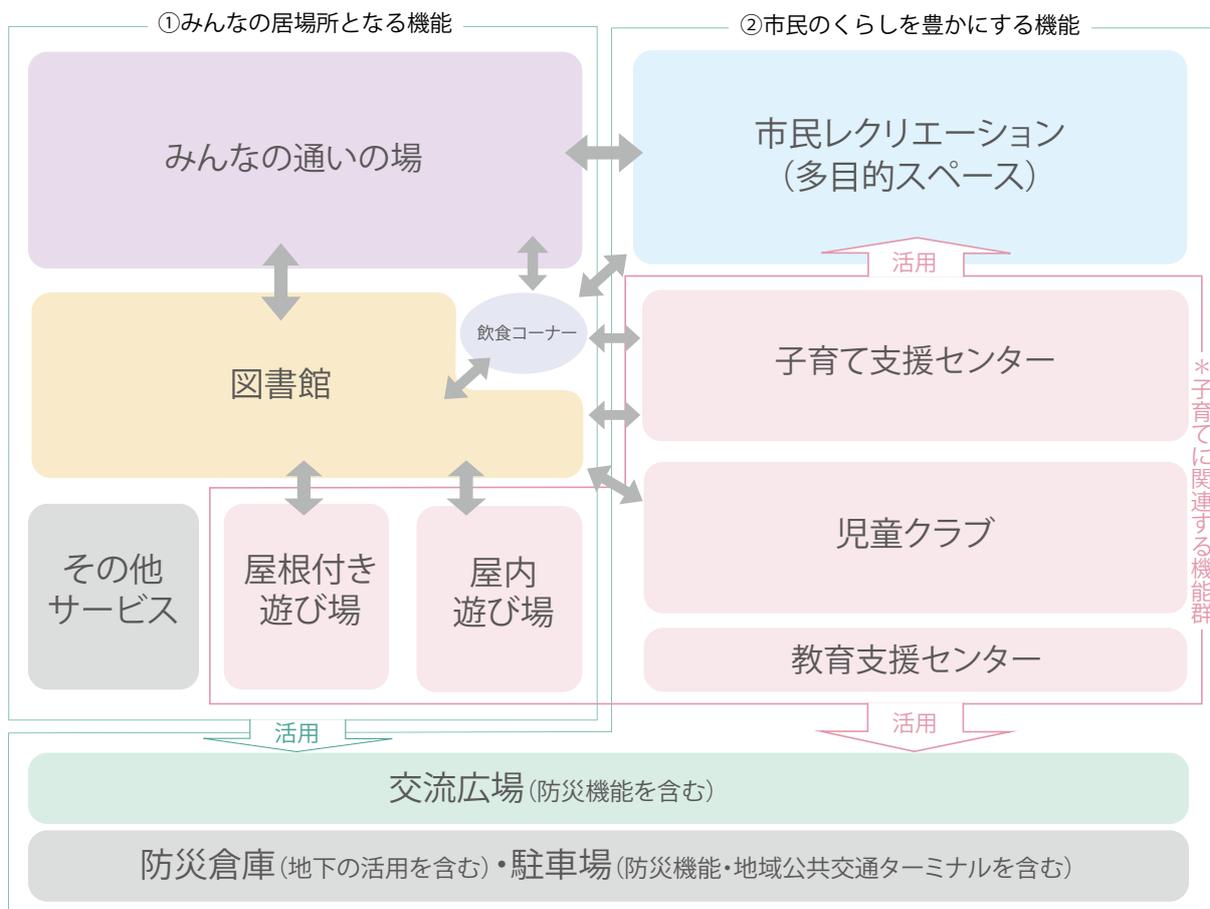
現代の図書館は、その地域において「情報提供」や「教育」「地域情報ネットワーク」などの役割を担っており、市民の学びの場を提供するだけでなく、様々な地域づくり活動のプラットフォームとして複合化される傾向にあります。



■図書館を介して各機能を繋ぐ考え方



(4) 機能連携図



- 本施設における機能連携の考え方は上図を基本とします。
- 「みんなの通いの場」や「市民レクリエーション (多目的スペース)」、「子育てに関連する機能」はすべて図書館との連携を図ります。
- 「みんなの通いの場」については、「市民レクリエーション (多目的スペース)」と連携した利用も想定します。
- 「子育てに関連する機能」が「市民レクリエーション (多目的スペース)」を活用することによって、多世代交流の機会創出を図ります。
- 本施設内のすべての機能において、交流広場を活用したイベントなどのプログラムを検討します。

§ 06. 建設候補地の選定

(1) 建設候補地

建設候補地としての様々な魅力を持つ旧榕城中学校跡地

- 多世代交流施設の建設候補地は、旧榕城中学校跡地とします。

■旧榕城中学校跡地の建設候補地としての魅力

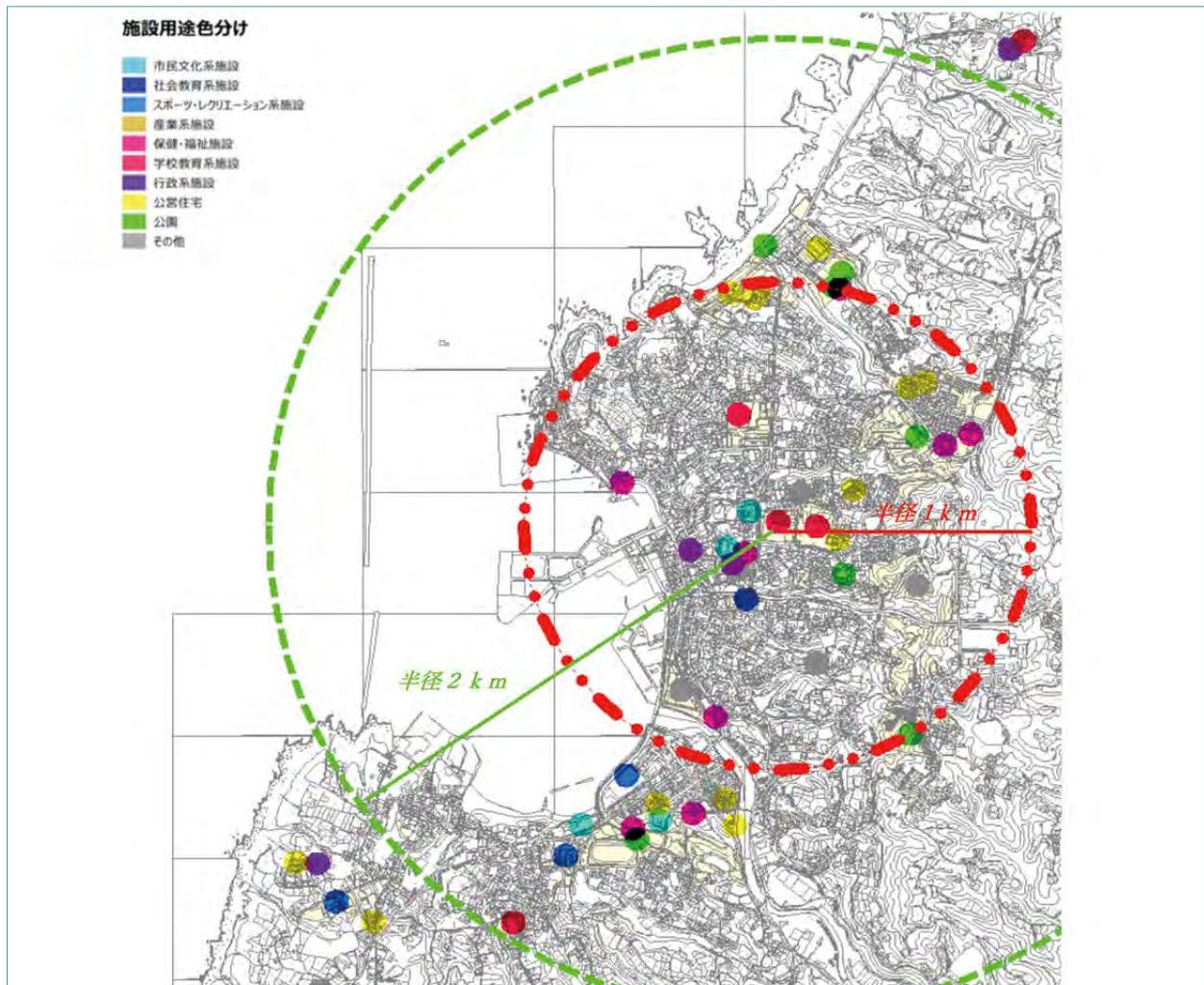
- ①歴史的・文化的に市民の愛着がある土地柄
- ②計画しやすい十分な面積がある
- ③周辺に様々な都市機能が集積している
- ④中心市街地にあり利便性が高い
- ⑤高台に位置し、災害リスクが小さい



▲建設候補地の位置 (Google マップから本市作成)

■旧榕城中学校跡地周辺の公共施設 (西之表市公共施設再配置計画より)

- 周辺に公共施設が集積しており、本市の歴史・文化・教育の中心エリアとなっています。



▲周辺公共施設の分布状況

■現況写真および現在の利用状況（西之表市公共施設再配置計画より）



▲現況配置図

建築年度：1955年～
 閉校：2009年3月
 築年数：70年
 敷地面積：13,611.00㎡
 延床面積：6,499.00㎡



▲俯瞰写真

建物名称	構造	階数	建築年度	経過年数	延床面積 (㎡)	面積 (㎡)	現在の利用状況
①普通教室棟	RC	3	1955	65	413.00	1,915.00	(1F) 主に社会教育課が利用。 埋蔵文化財の発掘作業場、資料置き場 選挙管理委員会の備品保管場所 など (2F・3F) 一部を利用。
			1960	60	836.00		
			1961	59	666.00		
③校舎	RC	3	1987	33	270.00	-	(1～3F) 埋蔵文化財の資料置き場など
②特別普通教室棟	RC	3	1964	56	595.00	2,329.00	資料置き場として一部を利用。
⑭特別普通教室棟			1994	26	55.00		
⑰特別普通教室棟			1975	45	846.00		
⑱特別教室棟	RC	1	1976	44	232.00	-	まちづくり公社の事務所として利用。
⑳屋内運動場	RC	1	1979	41	1,020.00	-	中学校の第2体育館として利用。
⑤武道場	RC	1	1959	61	541.00	-	武道場として各種団体が利用。
⑦配膳室	RC	1	1964	56	106.00	-	小規模建物
⑫校舎	S	1	1973	47	10.00	-	小規模建物
⑬校舎	W	1	1995	25	8.00	-	小規模建物
⑧便所	RC	1	1965	55	41.00	-	便所として利用。
⑨便所	RC	1	1965	55	27.00	-	便所として利用。

▲利用状況（令和3年時点）



▲校舎全景（南西より見る）



▲東側：榕城小学校（隣接）



▲西側：鉄砲館（右）・防風林（手前）



▲南側：緑の中に住宅地が広がる・市立図書館（右奥）



▲北側：住宅地が広がる・校舎（手前）



▲北西角：鉄砲館を見る・武道館（右手前）

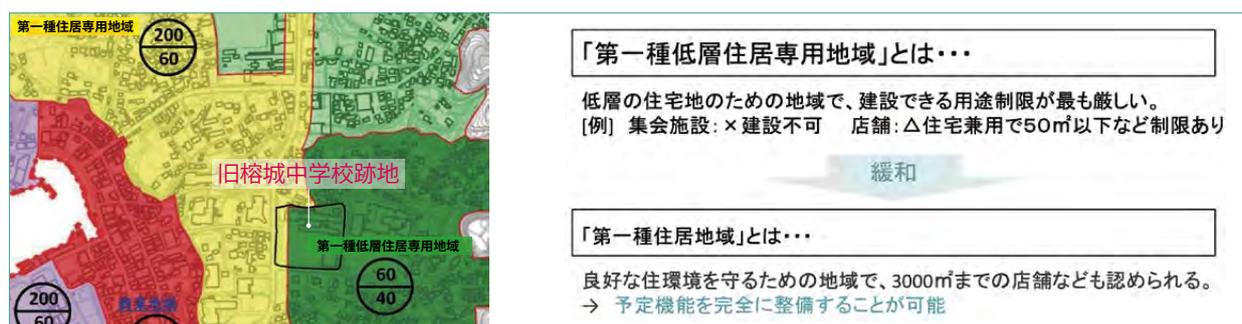


▲南西角：道路と敷地には高低差がある

(2) 建設にあたっての留意事項

①用途地域の変更について

- 現在、旧榕城中跡地は「第一種低層住居専用地域」に指定されています。
- 今後、都市計画やまちづくり上の土地の有効活用の観点から、用途地域を「第一種住居地域」に変更する手続きを取る予定です。
- ただし、この用途変更によって一定の条件下で工場や危険物貯蔵庫の建設も可能になるため、これらの建設を制限する特別用途地区を設定することにより、これまでと変わらない住環境を維持します。



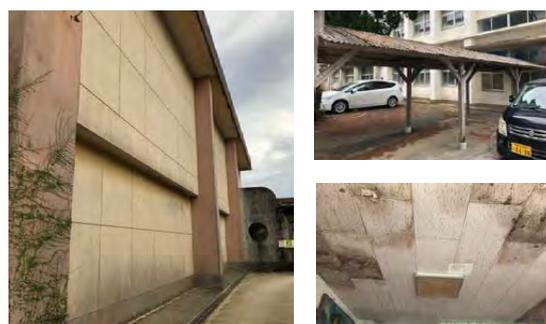
* 変更範囲については、旧榕城中学校跡地およびその周辺道路に限定することを想定しています。

②埋蔵文化財包蔵地について

- 現在、旧榕城中学校跡地は埋蔵文化財包蔵地に該当しており、建設に際しては事前の調査や関係機関との協議を実施する予定です。

③アスベストについて

- 専門事業者による目視調査によると、既存校舎はアスベストが使用されている可能性が極めて高く、解体においては所定の調査や除去工事を実施する予定です。



▲アスベストが含まれていると思われる外壁・屋根・天井

④開発許可制度について

- 旧榕城中学校跡地の西側と南側は道路から数メートル高い斜面となっており、ここに駐車場出入口を設けるために切土を行う場合など、設計内容によっては都市計画法上の開発行為に該当する可能性が考えられ、今後、関係機関と協議しながら、開発許可の条件や必要な工事内容および費用について精査します。

§ 07. 施設整備方針・規模の想定

(1) 複合施設としての整備方針

- 多世代交流施設の整備にあたっては、機能の複合化による相乗効果のメリットを活かすことで、市民ニーズに寄り添った公共サービスの効果的かつ効率的な提供が可能な施設の実現を目指します。

① 利便性の高い施設

- 複合施設として一体感があり利用者にとって使いやすい空間とすることで、それぞれの利用目的を問題なく実施できるだけでなく、様々な活動が相互に触発を生むことで利用者の興味や関心を広げ、新たな知的活動や交流の契機となる施設を目指します。
- フリー Wi-Fi の導入など情報通信技術の活用を図ります。

② 安全で安心して利用できる施設

- 見通しが良く、人の目が行き届く空間とすることで、利用者の安全性に配慮します。
- すべての人（乳幼児・高齢者・障がい者・外国人など）が安心して利用できるように、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた施設計画とします。
- 室名表示などは見やすく分かりやすいサイン計画とし、利用案内や利用状況などの情報提供にはデジタルサイネージ（電子掲示板）の導入を検討します。
- 耐震性の確保、および火災などの緊急時に備えた避難経路を確保します。
- 地震や台風など災害発生時には施設内や広場を避難スペースとして使用することを想定した計画とし、各スペースの面積や仕様に配慮すると共に、防災倉庫等の配備を検討します。

*ユニバーサルデザイン

年齢・性別・文化の違い・身体状況など、人々が持つ様々な個性や違いに関係なく、最初から誰にとっても分かりやすく、使いやすいデザインのことをいう。



③ スペースの共用化と適切な配置

- 複合化により共用とすることが可能なトイレ・通路・事務室・相談室・倉庫・設備スペースなどについては、総合的な観点から効率的に整備します。
- 各スペースの広さや仕様については、利用頻度の見込みや、利用者動線、管理上の効率性等の観点から十分な水準を確保するものとします。
- 各機能の配置については、各々の役割を果たしながらも、有機的な連携が可能な配置とします。
- 機能ごとに「静かな空間」と「にぎわいのある空間」のメリハリを考慮した配置を検討することで、あらゆる活動ニーズに応える施設を目指します。

④環境に配慮したシンプルで経済的な施設・設備

- 本施設は、シンプルな構造や平面計画など合理性を重視した計画とします。
- 内装材・家具などについては木を基本とする地産材の活用を検討します。
- 可能な限り地元事業者（建設・専門工事）によって施工可能な施設計画に配慮します。
- 脱炭素社会に相応しい施設の実現を目指し、省エネ設備や再生可能エネルギーの導入については、費用対効果を確認しながら環境負荷の低減を図ります。
- 近隣の住居環境に関して、騒音・振動・日照・通風・悪臭・排水及び火災危険度に関する事項について十分に配慮します。

⑤将来を見据えた柔軟な建築計画と効率的な運営・維持管理計画

- 数十年後にも施設が使用されることを見据え、将来的な社会情勢やニーズの変化にも柔軟に対応が可能な計画とするため、建築計画においてはスケルトン・インフィルの考え方を取り入れながら空間や設備スペースを整備し、運営・維持管理計画においては業務オペレーションや管理システムをD X化するなどの工夫を検討します。
- 複合化により可能となる業務整理を行うことで運営コストの縮減を図り、最小の経費で最大の効果を上げる工夫を検討します。
- 保守・メンテナンス等の維持管理業務については、民間事業者等への包括管理委託も視野に入れた弾力的な検討を行います。

*スケルトン・インフィル

建築を「スケルトン（構造体）」と「インフィル（内装・設備）」とに明確に分けて整備することで、耐久性と可変性を高める設計方法のことをいう。将来的な間取り変更や模様替えなどが容易となる。

⑥敷地の有効活用・周辺施設との連携

- 中心市街地に立地し、計画しやすい十分な面積（約1万㎡）を有する建設候補地の魅力を最大限活かした計画とします。
- 施設前面に交流広場を配置し、市民の憩いや運動の場、子どもの遊び場、イベントスペースとして利用します。
- 交流広場は災害時に防災広場として活用することを想定します。
- 駐車場については、周辺公共施設におけるイベントや会議等の際の臨時駐車場としての活用を想定します。
- 多世代交流施設へのアクセスについては、自家用車による利用に限らず、バスやどんがタクシーなどの地域公共交通機関の利用を想定するほか、近隣の鉄砲館や榕城小学校からの徒歩によるアクセスにも配慮した計画とします。



▲市街地巡回バス「わかさ姫」



▲デマンド型乗合タクシー「どんがタクシー」

(2) 各機能の整備方針

■みんなの居場所となる機能

①図書館

「図書館」機能の整備方針については次の通りです。

- 既存の西之表市立図書館の移転リニューアルとして計画します。
- 滞在型・課題解決型の図書館を考慮した施設づくりを目指し、図書の貸出や閲覧だけでなく、読書・調査・課題解決・交流など多様な利用に対応した空間を整備します。
- 自宅や職場、学校でもない第三の居場所（サードプレイス）として、図書の活用を中心とする様々な目的による利用を想定し、多様なスペースや家具を配置するなど、居心地の良い空間を提供します。
- 蔵書を利用しての調べ物や研究ができる閲覧室の充実化を図ることによって、落ち着いて過ごすことができる場を確保します。
- 図書館に集う人たちが、様々な課題を話し合ったり、情報を交換したりするなど、交流の場を創り出します。
- 多様化する利用者の学習スタイルやニーズに応えられるよう学習環境を整備します。
- 榕城児童クラブや子育て支援センターなど併設する他機能との連携を強化し、児童書等の設置や読み聞かせスペース等の充実化を図ります。

<参考イメージ①> 山形県庄内町 庄内町立図書館

木の優しい雰囲気の内側に書架や読み聞かせスペースなどを設置している



▲外観



▲木造の図書館



▲読み聞かせスペース

<参考イメージ②> 福島県須賀川市 須賀川市民交流センター tette

施設内のいたるところに滞在できる様々なスペースが散りばめられている。



▲外観



▲図書館



▲屋外デッキ



▲様々なスペース



▲子どもの遊び場

②子どもの遊び場

「子どもの遊び場」機能の整備方針については次の通りです。

- 主に概ね3歳～6歳の利用を想定した屋内遊び場と、主に概ね7歳～12歳（小学生）の利用を想定した屋根付き遊び場を設置します。
- 屋内遊び場については、子育て支援センター利用者による活用も想定します。
- 屋根付き遊び場については、児童クラブ利用者による活用も想定します。
- 親子連れによる利用を想定して必要な面積を検討します。
- 遊具等の仕様については障がいの有無などに関わらず誰もが安心して利用できるインクルーシブデザインの考え方に基づいて決定します。

*インクルーシブデザイン

高齢者・障がい者・外国人など、従来のデザインプロセスから除外されてきた多様な人々を巻き込み、一緒にデザインを行っていくことをいう。

<参考イメージ> 鹿児島市西部親子つどいの広場いしきらら



▲屋内遊び場



▲屋根付き遊び場

③みんなの通いの場

「みんなの通いの場」機能の整備方針については次の通りです。

- 地域サロンによる談話や軽易な体操ができる集会室を設置します。
- 市民講座（座学）や囲碁将棋・ワークショップ等の活動が可能なレクチャールームを設置します。
- 集会室とレクチャールームは一体的に整備するものとし、可動式間仕切りなどによって最大3単位の活動が可能な仕様とします。

<参考イメージ> 鹿児島市高齢者福祉センター伊敷



▲集会室の使用例（ヨガ体操）



▲レクチャールームの使用例（囲碁将棋）

<参考> 地域サロンへのアンケート調査

【実施期間】 令和6年11月下旬～12月上旬

【実施方法】 職員による調査票の配布

【回答総数】 9件

【回答結果】

活動内容について : 元気アップ体操やサロンの実施が多かった
多世代交流施設の活用意向 : 活用したいという声が多かった
活用アイデア : 少人数でのレクリエーション カフェでサロン
図書館の本で児童に紙芝居や読み聞かせをする
図書館と連携して種子島の歴史について学ぶ
他の団体との交流 など

④郷土資料／芸術展示コーナー

「郷土資料／芸術展示コーナー」機能の整備方針については次の通りです。

- 郷土に縁のある芸術作品展示や偉人顕彰のためのコーナーを設置します。
- 図書館機能との連携を前提とした配置とします。

<芸術作品展示例>

河口洋一郎氏 作品



<偉人顕彰展示例>

前田豊山
西村天囚
羽生慎翁
西ノ海 他



⑤各種相談スペース

「各種相談スペース」機能の整備方針については次の通りです。

- 様々な相談が可能なスペースを4室程度確保します。
- 相談スペースの利用については子育てや福祉関連の相談を中心とし、特段の配慮が必要な相談者への対応など既存の市内相談窓口のサブスペースとして位置付けます。
- 相談スペースへのアクセスについては、プライバシー保護の観点から人目につきにくい動線を確認するなど配慮した計画とします。
- 一部の相談スペースについては、児童クラブや子育て支援センター、教育支援センターの相談室としての兼用を認めるほか、一時的な子どもの静養室としての利用も想定します。

①榕城児童クラブ

「榕城児童クラブ」機能の整備方針については次の通りです。

- 既存の榕城児童クラブの移転リニューアルとして計画します。
- 学年による活動や必要面積の違いを踏まえ、低学年と高学年それぞれの居室を計画します。
- 児童の着替えスペースとして男女別の更衣室を用意します。ただし、専用空間が確保できない場合は、居室をカーテン等で仕切ることも可能とします。
- 専用のトイレ（男女別）を設置します。
- 発熱など児童に急な体調変化があった場合の滞在スペースとして静養室を設置します。
- 職員の事務スペースについては、見通しがよく児童の見守りに支障がない計画とします。
- 簡単な調理処理が可能なスペースの設置を検討します。
- 子どもの送迎に配慮した配置とします。
- 居室内に児童向けの蔵書を設置するなど図書館との連携を検討します。

<参考> 利用状況（R6年度実績より）

【登録者数】 47名（低学年：36名 高学年：11名）

【平均利用者数】 約30.5名/日

②子育て支援センター

「子育て支援センター」機能の整備方針については次の通りです。

- 既存の子育て支援センターの移転リニューアルとして計画します。
- 月齢に応じた適切な支援の提供と利用者が安心して安全に利用できるように乳児室・ほふく室・遊戯室をそれぞれ設置します。
- 授乳室を設置します。（多世代交流施設との兼用とする。）
- 専用のトイレを設置します。
- 必要面積等については移転リニューアルによる利用者増加を想定した計画とします。
- 事務室については情報管理に配慮しながら、職員の働きやすさに配慮した計画とします。
- 読み聞かせ用の絵本や子育て関連の蔵書を設置するなど、図書館との連携を検討します。

<参考> 利用状況（R5年度実績より）

【年間利用者数】 4,492名（子ども：2,459名 大人：2,033名）

【平均利用者数】 約15.5名/日（子ども：8.5名/日 大人：7.0名/日）

【相談件数】 117件/年

<参考> 利用者へのアンケート調査

【実施期間】 令和6年11月25日～12月6日

【実施方法】 職員による調査票の配布（WEBフォーム）

【回答総数】 21件

【回答結果】 利用目的 : 子どもを遊ばせたいという回答が最も多かった。

満足度 : 職員の対応については満足度が高いが、狭さや設備の老朽化、駐車場が停めにくいという声があった。

複合化について : 複合化について否定的な声は少ないが、子どもの安全を守るための配慮を求める意見があった。

併設を望む機能 : 子どもとの食事スペースを望む声が多かった。

利用者の実態 : 利用者の多くが転勤族・転入世帯であった。

③教育支援センター

「教育支援センター」機能の整備方針については次の通りです。

- 不登校の子どもなどへの支援体制の充実化と、国が掲げる「学びの多様化学校」への将来的な発展的活用も考慮した計画とします。
- 学習室については個人ブースやパーティションを設置することによって個人やグループなど様々な学習スタイルに対応可能なしつらいとします。
- プレイルームについては専用空間として設置を計画しますが、今後の運営方針によっては設計段階において屋内遊び場や屋根付き遊び場の活用可能性も考慮するものとします。
- 相談室については多世代交流施設内の相談スペースとの兼用とします。
- 事務室については職員が常駐するほか、市内で活動するソーシャルワーカーの活動拠点としての活用を検討します。

④市民レクリエーション（多目的スペース）

「市民レクリエーション（多目的スペース）」機能の整備方針については次の通りです。

- 多世代交流施設として市民などが様々な年齢構成および活動単位による多彩な知的活動や交流イベントを企画し開催することを想定し、多目的スペースと健康づくり・レクリエーション室を設置します。
- 多目的スペースについてはイベント開催や会議室として最大80名程度の利用を想定した計画とします。
- 健康づくり・レクリエーション室については、卓球やダンスなど室内で体を動かす目的による利用を想定した計画とし、練習用ミラーなどの設備の導入や適切な防音・防振仕様を検討します。

<参考イメージ> 鹿児島市高齢者福祉センター伊敷



▲多目的スペースの使用例（多世代交流イベント）



▲レクリエーション室の使用例（卓球など）

<参考> 勤労青少年ホームの利用状況（R5年度実績より）

【年間利用者数】	4,883名	(内訳)	クラブ活動等	: 2,851名
			クラブ活動以外	: 1,142名
			市主催講座	: 13名
			個人利用	: 877名

【クラブ活動別利用状況】

講座・教室名	主な利用団体	実施回数	利用者数
スポーツ	卓球連盟 など	193回	1,025人
音楽	市民グループ など	24回	103人
ダンス・体操	エイサー・ヨガ など	261回	1,319人
趣味・ボランティア	市民団体 など	110回	404人

総計： 588回
2,851人

⑤その他（交流広場・駐車場・防災倉庫）

「その他（交流広場・駐車場・防災倉庫）」機能の整備方針については次の通りです。

- 交流広場については、市民などの交流や遊び場としての利用を想定した計画とすると共に、災害発生時に防災広場として機能することを想定し、炊き出しや救援物資の配布スペースとしての活用が可能な仕様を検討します。
- 駐車場については、周辺公共施設の臨時駐車場としての利用が想定されることから、可能な限り多数の台数（*本計画上では244台を想定）を確保しますが、平常時に空きスペースが増えることが懸念されるため、環境負荷や景観に配慮した仕様を検討します。
- 駐輪場については、既存施設の利用状況に基づく場合、利用者の多くが自家用車によって来館していることから、今後の運営方針等の検討を踏まえながら適切な台数を確保します。
- 交流広場や駐車場の仕様については、整備に係るイニシャルコストだけでなく、メンテナンス性などのランニングコストについても考慮しながら決定します。
- 多世代交流施設が災害発生時などの緊急時に避難所として機能することに鑑み、地下の活用も含めて施設内に防災倉庫を計画します。
- 防災倉庫に備蓄する備品等や規模については今後の運営方針や設計段階において具体的に検討するものとします。

(2) 施設規模の想定

- 各機能の整備方針に基づき、様々な基準や法令等を踏まえながら、現段階で想定される多世代交流施設の規模を算出し、下表に整理します。
- 尚、設計段階において、設計者や運営事業者等のノウハウや工夫によって、さらに効果的な配置や適正規模について精査していくものとします。

機能		諸室	面積			備考	
①みんなの居場所となる機能	図書館	開架書架	-	m ²	1435	m ²	* 諸室面積については別途算定する
		閉架書庫	-				
		閲覧室	-				
		視聴覚ルーム	-				
		学習室	-				
		絵本（読み聞かせ）コーナー・その他	-				
	子どもの遊び場	屋内遊び場	120	m ²	340	m ²	* 最大値
		屋根付き遊び場	220	m ²			
	みんなの通いの場	集会室	72	m ²	216	m ²	
		レクチャールーム（教養講座室）	144	m ²			
	その他サービス	郷土資料/芸術展示コーナー	50	m ²	150	m ²	
		各種相談スペース	100	m ²			
飲食コーナー		-	m ²	-			
②市民のくらしを豊かにする機能	榕城児童クラブ	高学年の部屋	28	m ²	183	m ²	
		低学年の部屋	55	m ²			
		更衣室（児童用）	20	m ²			
		静養室・事務室・その他	80	m ²			
	子育て支援センター	乳児室	21	m ²	189	m ²	
		ほふく室	42	m ²			
		遊戯室	25	m ²			
		授乳室	20	m ²			
		相談室・事務室・その他	81	m ²			
	教育支援センター	学習室	72	m ²	176	m ²	* 兼用
		プレイルーム	72	m ²			
		相談室	-	m ²			
		事務室	32	m ²			
	市民レクリエーション（多目的スペース）	多目的スペース	240	m ²	420	m ²	
		健康づくり・レクリエーション室	180	m ²			
	その他	交流広場（防災機能を含む）	3950	m ²	(9650)	m ²	* 外構・その他として下記合計には非算入
		駐車場（防災機能・地域公共交通ターミナルを含む）	5700	m ²			
		防災倉庫（地下の活用を含む）	-	m ²			

小計	3109	m ²	(A)
----	------	----------------	-----

設備・管理部門(15%)	466	m ²	(A)×0.15
--------------	-----	----------------	----------

合計	3575	m ²	
----	------	----------------	--

§ 08. 配置・ゾーニングの考え方

(1) 配置計画の考え方

- 旧榕城中学校跡地における施設配置については、敷地の東西側と南側の接道に対する考え方を重視した配置を基本とします。

東側道路

榕城小学校と挟まれた道路であり、幅員が約4mで狭いため、原則として駐車場出入口は設けない（緊急車両用出入口を除く）計画とします。また、将来的な道路拡幅の可能性を考慮し、敷地境界から一定の範囲には施設計画を行わないものとします。

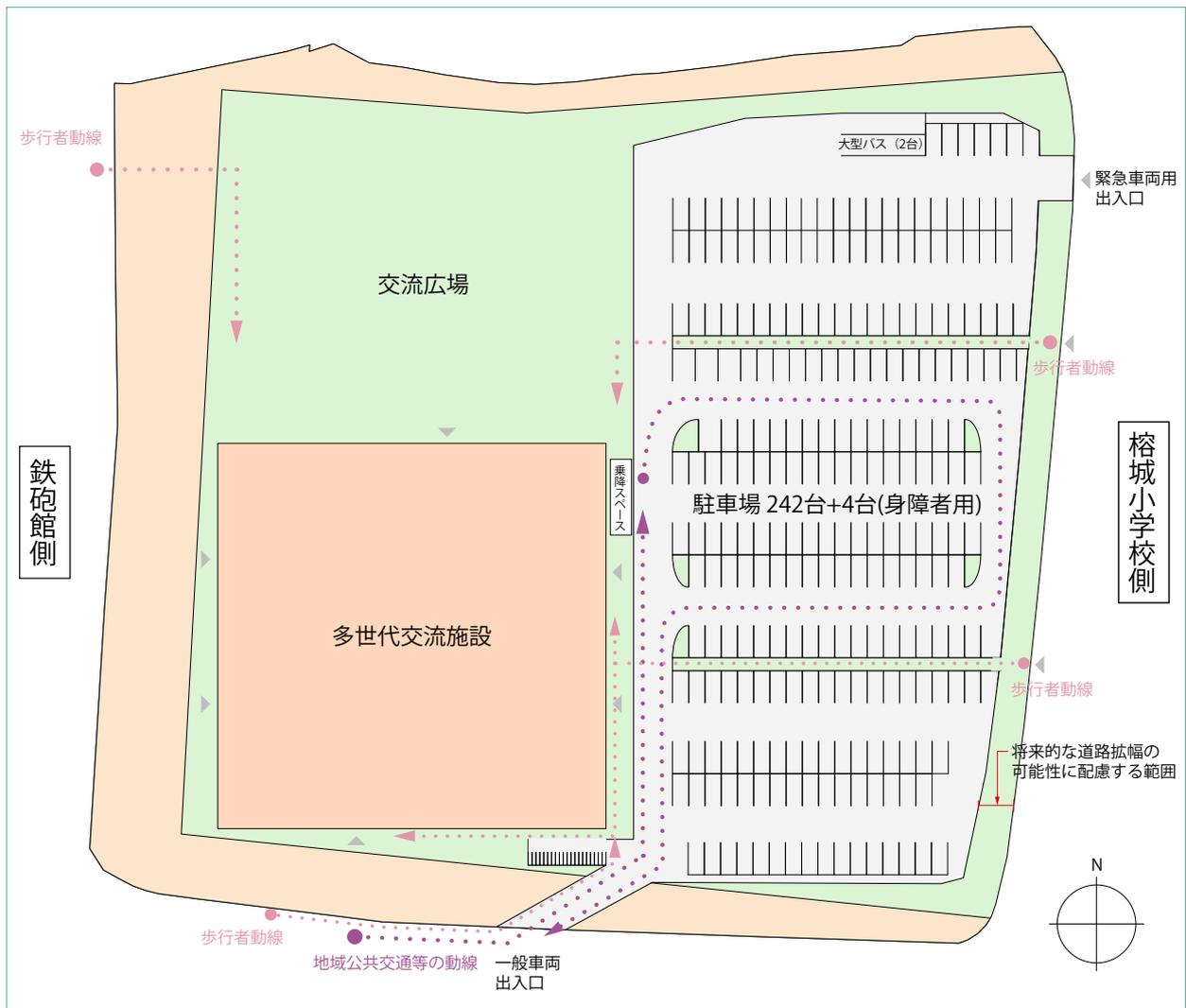
南側道路

市道から脇に入ったところで駐車場出入口を取ることができ、混雑回避や安全性を高めることが可能です。敷地と路面に高低差があるため、開発許可手続きが必要です。

西側道路

市道からのアクセスが最も良いが、敷地との高低差があり、駐車場出入り口は設けない計画とします。徒歩による動線としては、鉄砲館との連携を考慮することが望まれます。また、現状の植栽が防風林の役割を担っており、その保存活用も含めて、新たな公共施設においては特に冬季に強くなる季節風に対する配慮が望ましいものと考えられます。

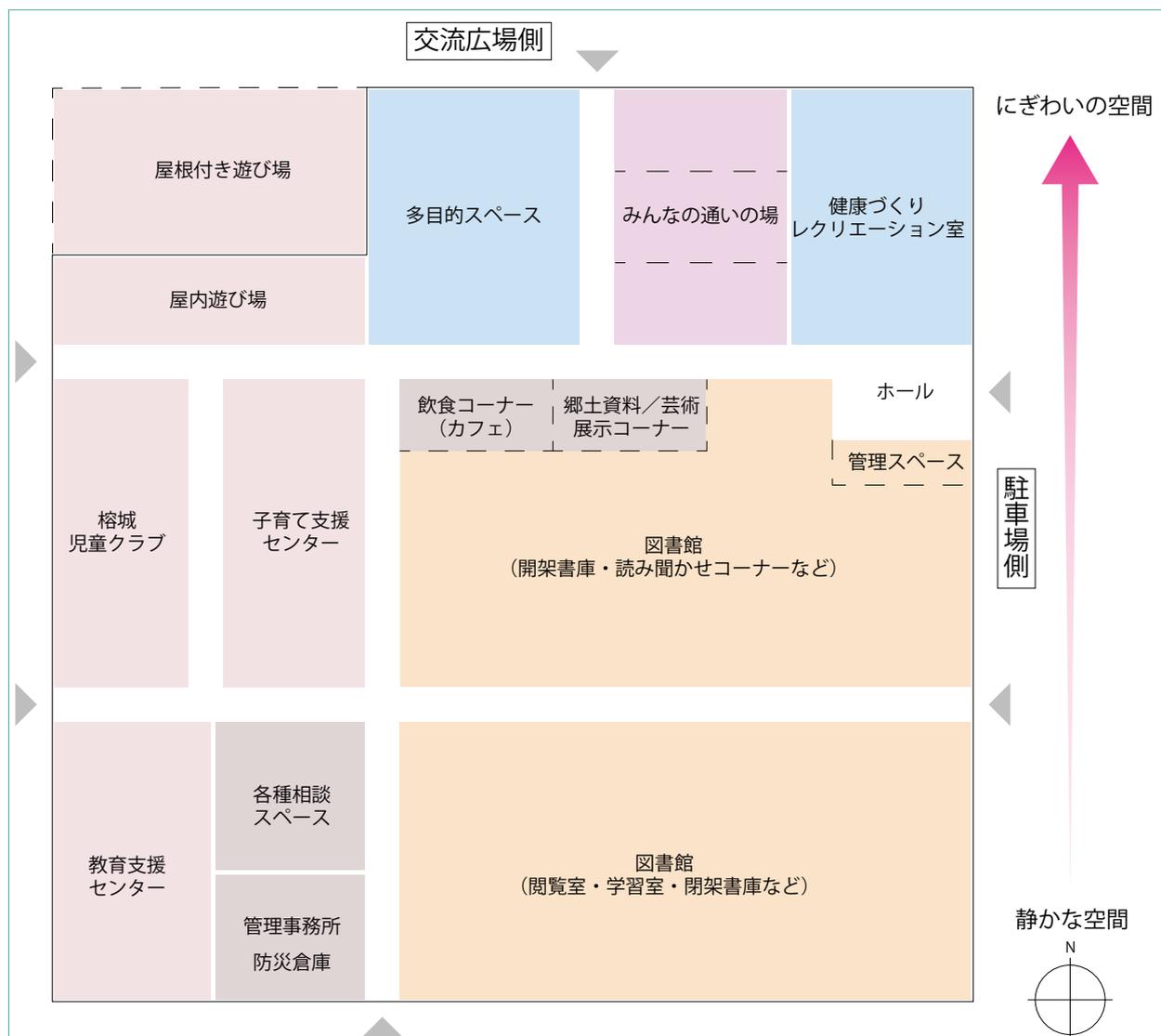
■ 施設配置イメージ図



* 今後、設計事業者等のアイデアによって変更となる場合があります。

(2) 各機能配置の考え方

- 施設内の各機能配置の考え方については、それぞれの機能に必要な空間を用意するために、「にぎわいの空間」と「静かな空間」に配慮した計画とします。



* 今後、設計事業者等のアイデアによって変更となる場合があります。

- 「図書館」については、本や資料を利用しながら子どもからお年寄りまでが思い思いに多様な過ごし方ができるスペースと、落ち着いた雰囲気の中で読書や調べ物をしたり学習ができるスペースを設け、メリハリのある配置とします。
- 「みんなの通いの場」「健康づくり・レクリエーション室」については、駐車場からのアクセスが良い位置に配置します。
- 「多目的スペース」については、交流広場と連携しやすく、かつすべての施設利用者にとって利用しやすい位置に配置するものとします。
- 「榕城児童クラブ」「子育て支援センター」については、「子どもの遊び場」や「図書館」との連携を考慮した位置に配置します。
- 「教育支援センター」については、最も落ち着いた環境に配置すると同時に、利用者のプライバシーに配慮した動線計画とします。
- 「郷土資料／芸術展示コーナー」や「飲食コーナー（カフェ）」については、すべての施設利用者にとって利用しやすい位置に配置するものとします。

§ 09. 事業手法の検討

(1) 事業手法の検討

- 一般的に公共施設整備に係る手法については、従来方式のほか、PFI等による民間活力を導入する方法が考えられます。
- PFI方式は、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」に基づき、民間の資金と経営能力を活用し、公共施設等の設計・建設や維持管理・運営を行う方式で、予算の平準化や効率化が図れる可能性があります。
- 本事業においては、収益性を見込むことが難しいことや、公的資金による資金調達等を想定していることから、従来方式かPFI的手法とすることが望ましいと考えられます。

事業手法 評価の視点	従来手法		PFI的手法		PFI手法	
	(個別発注方式)		DB方式	DBO方式	BTO方式	
概要	設計・建設・運営業務を個別に発注する。		市が資金調達を行い、民間事業者に設計・建設業務を一括して発注する。 *性能発注 *運営は指定管理の場合あり	市が資金調達を行い、民間事業者に設計・建設・運営業務を一括して発注する。 *性能発注 *SPCを設立する場合あり	民間事業者が資金調達を行い、民間事業者へ設計・建設・運営業務を一括して発注する。 *性能発注 *SPCを設立する	
民間ノウハウの発揮 (サービス水準の向上)	個別発注のため限定的	△	一括発注による効果が期待できる	○	運営まで含まれるため、一括発注による効果が大きい期待できる	◎
市民との共創の可能性	整備・運営段階を含め、継続的な連携が難しい	○	整備・運営段階を含め、継続的な連携が難しい	○	計画・運営段階を含め、継続的な連携が可能	◎
コスト縮減効果 (経済性)	個別発注のため、効果が低い	△	一括発注による効果が期待できる	○	運営まで含まれるため、一括発注による効果が大きい期待できる *金利負担が増加する	◎
財政負担の平準化	地方債等の活用により、平準化が可能	○	地方債等の活用により、平準化が可能	○	地方債等の活用により、平準化が可能	○
市のリスク負担	ほとんど負担する	△	設計・建設の一部リスクを民間へ移転可能	○	設計・建設・運営の一部リスクを民間へ移転可能	◎
地元企業の参画可能性	参画しやすい	◎	DBO方式やPFI手法より参画しやすい	○	コンソーシアム組成に参画できる地元事業者の育成が必要	△
事業者選定の期間	手続き期間が最も短い	◎	一定の手続き期間が必要	○	一定の手続き期間が必要	○
					PFI法の手続きが必要	△

(2) 運営手法の比較

- 市立図書館・榕城児童クラブ・子育て支援センターの現状の運営手法の整理と、複合施設化後の運営方針の想定については下表の通りです。

	市立図書館	榕城児童クラブ	子育て支援センター
R6年度 現在	市の直営による運営	業務委託による運営	市の直営による運営
複合施設化後	R7年度以降に検討・決定	業務委託による運営	市の直営による運営

- 図書館の運営主体については、本施設において図書館が最大の面積を占めることから、施設全体の包括的な運営・維持管理による業務効率化とサービス向上の可能性も考慮しながら、今後の図書館のあり方を検討する中で最適な手法を決定するものとしします。

	直営による運営	一部業務委託による運営	指定管理による運営
利点	<ul style="list-style-type: none"> 行政の意図が反映されやすい 長期的な人材育成や施策の継続性、運営ノウハウが確保される 地域、学校、行政関係部局等との連携が円滑に実施される 指揮命令系統が単一のため、効率的な運営が可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> 直営よりも人件費が割安になる 定型業務を委託することで、職員が専門性の高い業務分野に集中できる 労務管理の負担を軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> 直営よりも人件費が割安になる 人件費の削減分をサービス向上に繋げることができる 効率的な運営（施設管理・労務管理ほか）が図られる 民間のノウハウにより新規サービスの開発・実践が可能となる
課題	<ul style="list-style-type: none"> 人件費の適正化が図りにくい 意思決定から実行までに時間がかかる場合がある 新たなサービスや柔軟な発想が生まれにくい場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 委託職員の短期雇用・低賃金化につながる場合がある 同一施設で2重の指揮命令系統が生まれ、非効率的な運営となる場合がある 委託職員に直接指示ができないことから、問題発生時等に柔軟な対応が困難になる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の短期雇用・低賃金化につながる場合がある 受託者の交代や撤退により、専門性やノウハウが継続されないリスクがある 行政内部に長期計画の策定や監督するノウハウが失われる 利用者の信頼や安心を得るために時間と労力を要する場合がある
公共性	○	—	△
経済性	△	○	○
効率的な管理運営	○	△	○
専門性	○	△	○
継続性	○	△	△
雇用	○	△	△
民間の創意工夫	—	△	○

<参考> 図書館運営事業者へのサウンディング調査

【実施期間】 11月14日・27日 【参加社数】 3社

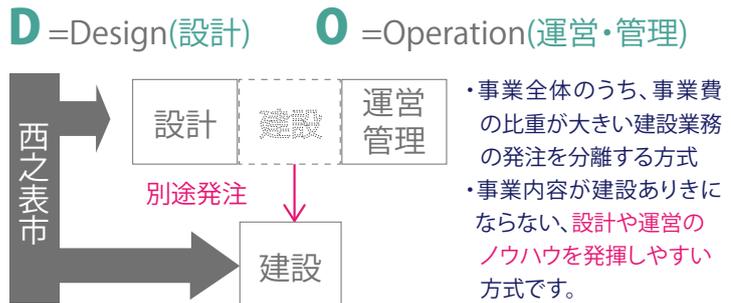
【調査結果】

- 参画意向 : 全社とも「関心がある」と回答した。
- 事業可能性 : 離島地域であるが、鹿児島市からの距離・移動時間を考慮すると、そこまで大きな問題は感じていない。カフェの設置については、独立採算部門としては難しいが、地元事業者との連携による可能性がある。
- その他意見 : 可能な限り早期に指定管理者を選定することで、持続可能な事業実施のための準備ができる。また、設計者と共同提案できると、運営側の意見を施設設計に反映できるので好ましい。

<参考> 空間づくりと運営のノウハウを発揮しやすい事業手法

- 設計者と運営事業者の共同による事業提案を求めるD O方式は、図書館運営を指定管理方式とする場合などにおいて、運営サービス面と空間デザイン面により優れた事業者を評価することが可能な方式です。
- D O方式はP F I的手法のひとつで、市が資金調達を行い、設計・運営・維持管理業務を民間事業者に一括発注し、建設業務については別途発注する方式です。

整備手法	D O
概要	<ul style="list-style-type: none"> 設計、運営、管理を民間が実施 建設は別途、市が発注
設計	民間
建設	市(業務委託)
運営	民間
維持管理	民間
資金調達	市



(3) 事業者選定手法の考え方

- 基本設計・実施設計にかかる設計者選定については公募型プロポーザルとし、様々な技術提案を募集し評価することによって、本施設の設計者として最もふさわしい技術者を選定するものとします。

選定方式	評価項目	利点	留意点
競争入札	設計料の低い者を選定	<ul style="list-style-type: none"> 発注手続きが容易 設計変更が容易 	<ul style="list-style-type: none"> ダンピングのリスク 能力が評価できない
公募型プロポーザル	実績や能力、意欲に優れた者を選定	<ul style="list-style-type: none"> 設計者の資質を評価することができる 設計変更が容易 	<ul style="list-style-type: none"> 選定理由の説明責任が発生する
コンペティション	優れた設計案を選定	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な設計案を審査することができる 選定の公平性が最も高い 	<ul style="list-style-type: none"> 選定に最も時間がかかる 設計変更が困難

§ 10. 概算事業費の検討

(1) 概算事業費の考え方

- 概算事業費については、国や県などが公表する基準単価や算定式による他、近年の他自治体における事例、民間事業者等への聞き取り結果などを参考に算出します。
- 特に近年では、急激な物価高騰により公共施設等の建設工事調達が相次いで不調となっていることが報道等で公表されています。この状況を踏まえ、建設単価の設定については、国が公表している統計情報等だけでなく市場単価についての民間事業者等への聞き取り結果も考慮することとし、離島地域による資材調達に係る運搬費等や今後の物価上昇率の予測も踏まえ、300千円/㎡程度として試算します。
- 概算事業費については、今後も物価上昇等の推移を踏まえながら継続的に確認を行うものとし、また、基本設計・実施設計・建設の各段階において、様々な事業費縮減のアイデアを積極的に検討・導入するものとし、
- 尚、想定を超えるような著しい物価上昇等が発生した場合は、再度施設規模や各種仕様の見直しを行うものとし、

費目	概算費	備考
解体費	約 3.9億円	解体設計費を含む (別途) アスベスト調査費・除去費
本体工事費	約13.3億円	建築に付随する家具・設備を含む
外構工事費		駐車場・交流広場等
設計・工事監理費	約 3.4億円	基本設計・実施設計・工事監理業務の委託費
その他		移転費・システム導入費・備品購入費など
合計	約20.6億円	*税別

*本体工事費の算定については、木造平屋と仮定して算出しています。

*本事業は上記費目に加えてアスベスト調査・除去費および造成工事費が別途必要になるものと考えられるが、これらについては次年度以降に事業進捗を踏まえながら算出するものとする。

(2) 財源・補助金の活用について

- 財政負担の軽減を図るため、様々な国や県の補助制度等の積極的な活用を検討するものとし、

§ 11. 事業スケジュール

- 本事業は、R 1 2年度初めの供用開始を目指して整備を進めます。
※今後の進捗状況によって変更になる場合があります。

	基本構想 基本計画 策定	用途地域 変更協議	設計者 (事業者) 選定	基本 設計	解体設計 アスベスト調査	実施 設計	解体 工事	埋文 調査	開発 申請	計画 通知	工事 発注	着工	工事	竣工	開館 準備	供用 開始
R6年度																
R7年度								試掘								
R8年度								↓								
R9年度								本調査								
R10年度																
R11年度																
R12年度																

資料編

§ 01. 市民アンケートの結果

目次

1. アンケートの実施概要	35
① アンケートの目的	35
② アンケートの概要	35
2. アンケートの集計・分析結果	36
問1 性別	36
問2 年齢	36
問3 お住まいの地域	37
問4 職業	37
問5 家族構成	38
問6 よく利用する公共施設（用途別）	39
問7 よく利用する公共施設（施設別）	40
問8 既存の公共施設に対するご意見・ご要望	41
問9 「多世代交流施設」に望む空間や雰囲気	42
問10 利用したい公共サービス（A. 図書館機能）	43
問10 利用したい公共サービス（B. 子育て支援機能）	43
問10 利用したい公共サービス（C. 生涯学習機能）	44
問10 利用したい公共サービス（D. 高齢者支援機能）	44
問10 利用したい公共サービス（E. 歴史資料展示機能）	45
問10 利用したい公共サービス（F. その他）	45
問11 「多世代交流施設」と一緒に整備してほしい機能	46
問12 建設候補地に求める条件	47
その他、ご意見・ご要望	48

1. アンケートの実施概要

① アンケートの目的

新たな教育交流施設の整備に向け、市民の皆様のご意見をお聞きし、同施設の整備方針や機能・規模等の整理に役立てていくことを目的として実施しました。

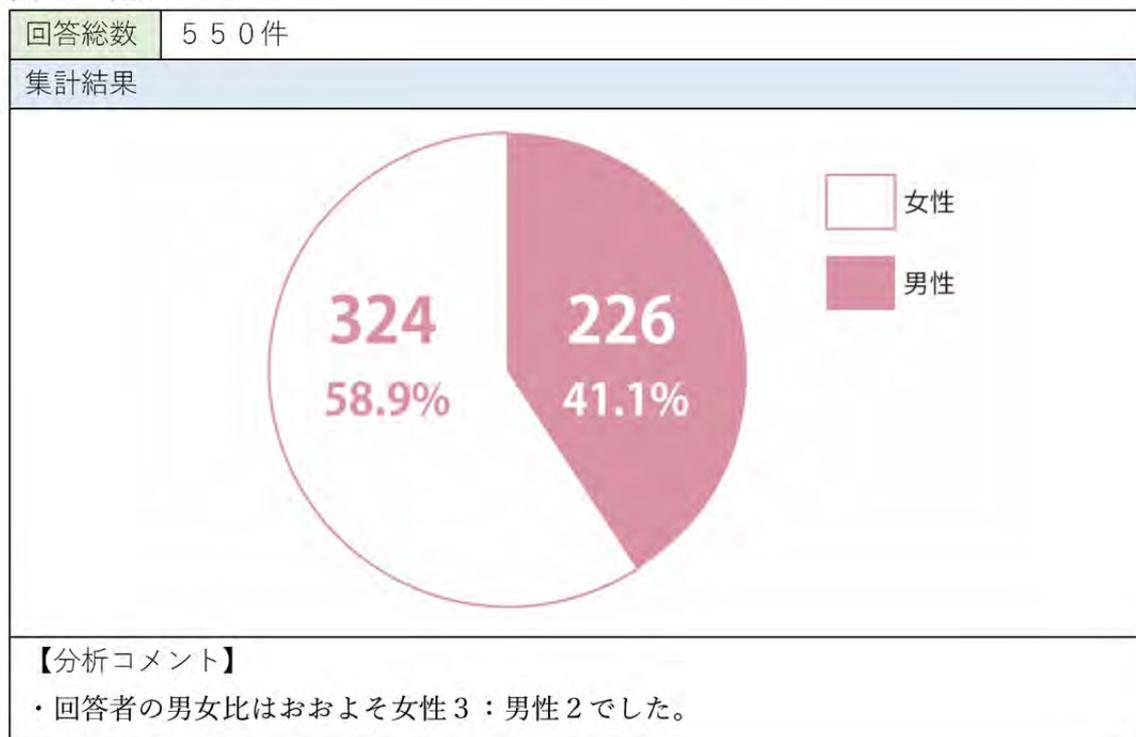
② アンケートの概要

【実施期間】	令和6年9月17日～9月27日 *一部、宛先確認のため期間を延長（最終回答期限10月4日）
【配布総数】	1300件（無作為抽出）
【回答方法】	アンケート票への記入、またはオンラインフォームによる
【回答総数】	556件（うち、WEB回答 133件）
【回収率】	42.76%

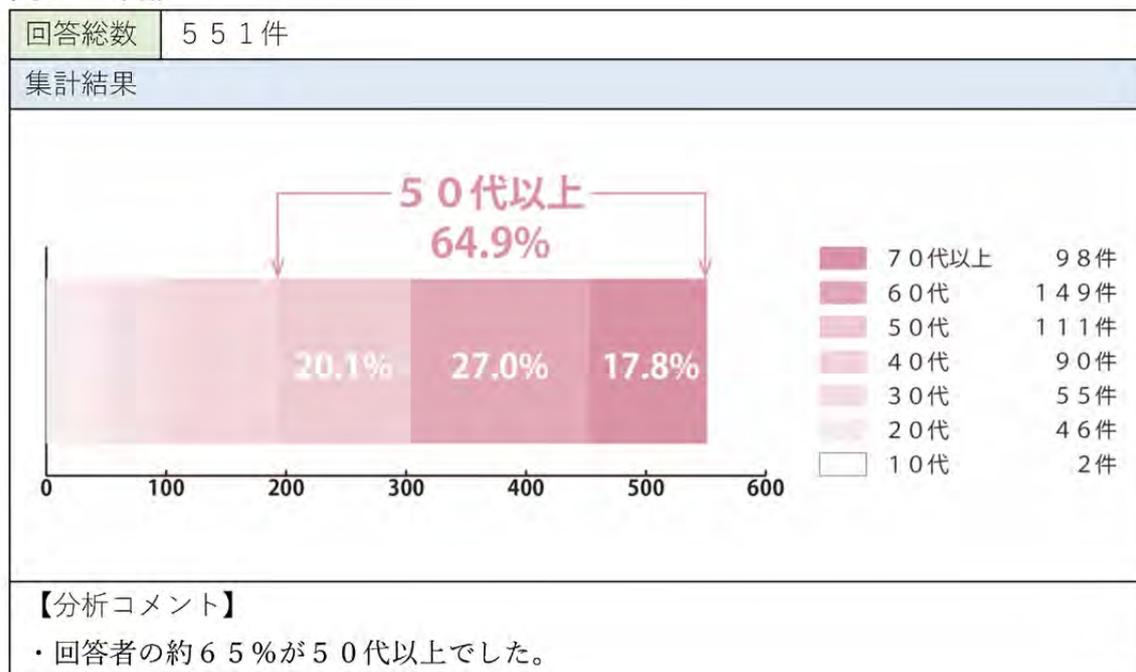
2. アンケートの集計・分析結果

アンケートの集計および分析結果について、以下のとおり報告します。

問1 性別



問2 年齢



問3 お住まいの地域

回答総数	548件				
集計結果					
榕城	上西	下西	国上	伊関	安納
278	22	82	36	16	15
50.7%	4.0%	15.0%	6.6%	2.9%	2.7%
現和	安城	立山	中割	古田	住吉
46	11	4	1	15	22
8.4%	2.0%	0.7%	0.2%	2.7%	4.0%
【分析コメント】					
・回答者の約半数が「榕城校区」にお住まいでした。					

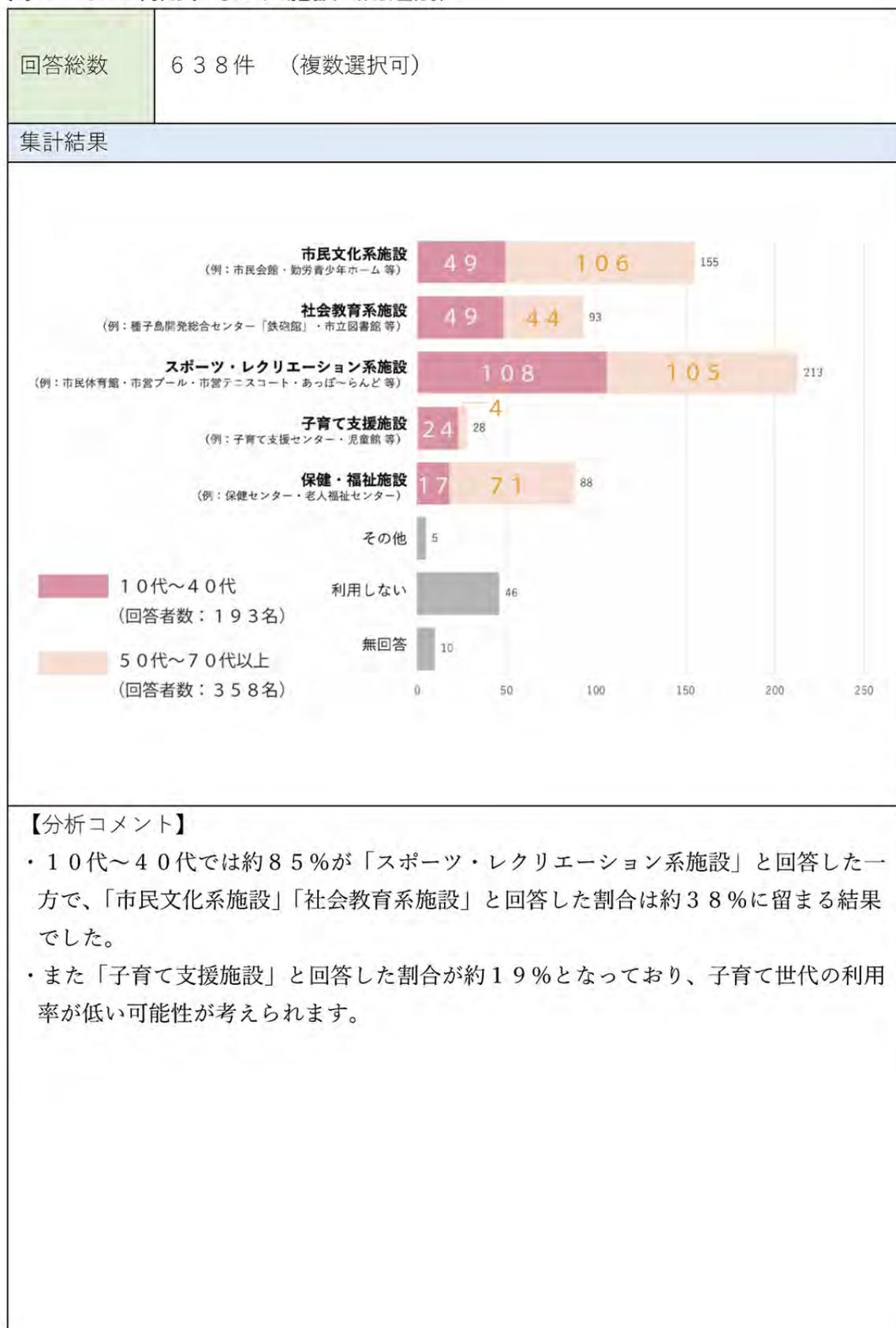
問4 職業

回答総数	550件		
集計結果			
自営業	会社員	公務員・団体職員	家事専業
87	122	99	37
15.8%	22.2%	18.0%	6.7%
パート・アルバイト		学生	無職
78		5	89
14.2%		0.9%	16.2%
その他			
33			
6.0%			
【分析コメント】			
・「会社員」が最も多い約22%を占め、次に「公務員・団体職員」が約18%、「無職」が約16%という割合でした。			

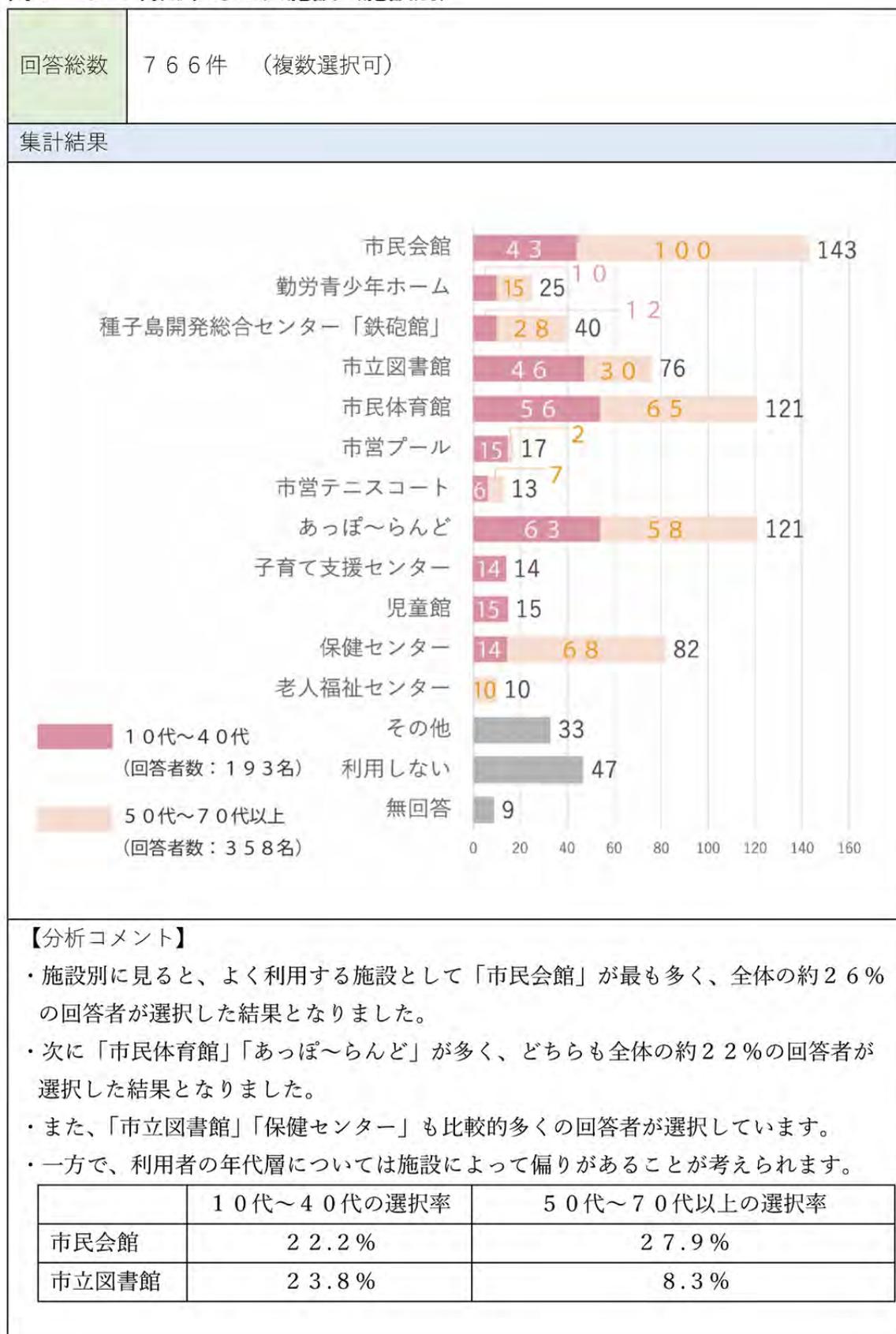
問5 家族構成

回答総数	551件		
集計結果			
一人暮らし	配偶者と同居	配偶者・子どもと同居	子どもと同居
115	224	125	13
20.9%	40.7%	22.7%	2.4%
親・配偶者と同居		親・配偶者・子どもと同居	
12		3	
2.2%		0.5%	
親・子どもと同居		その他	
11		48	
2.0%		8.7%	
<p>【分析コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成については「配偶者と同居」が最も多く約40%以上でした。 ・「配偶者・子どもと同居」「子どもと同居」「親・配偶者・子どもと同居」「親・子どもと同居」と回答した数が合わせて152件（27.5%）あり、本アンケートの分析において子育て中の数としてみなすこととします。 			

問6 よく利用する公共施設（用途別）



問7 よく利用する公共施設（施設別）



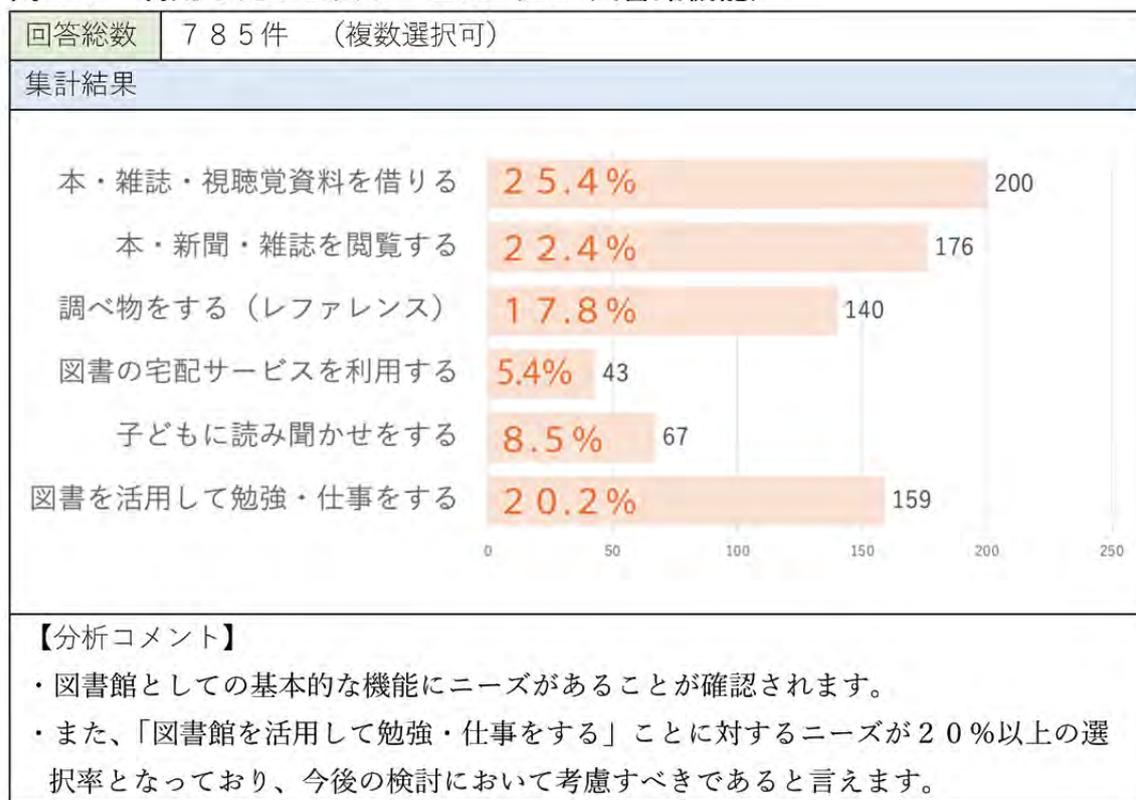
問8 既存の公共施設に対するご意見・ご要望

回答総数	146件 (自由記述)
集計結果	
【主なご意見・ご要望】(抜粋して要約)	
■市民会館	
・魅力あるイベントがあると良い	
■子育て環境	
・子どもの遊び場が少ない。	
・雨の日でも遊べる施設があれば良い。	
・児童館等を土日祝も利用できるようにしてほしい。	
■スポーツ・健康づくり	
・トレーニングルームにエアコンを設置してほしい。	
・ウォーキングコースが少ない。	
・テニスコートが2面しかなく大会が開けない。	
・市営プールの営業期間が短い	
■図書館	
・本の数が少ない。	
・気軽に利用できる施設になると良い	
・アクセスが悪い	
・高齢者の利用に配慮してほしい。	
・自由に勉強できるスペースを増やしてほしい。	
■その他、公共施設全般	
・時代遅れな印象を受ける施設が多い。	
・狭い施設が多く、開放的なスペースがもっとあると良い。	
・駐車場が少ない。	
・トイレ様式や管理方法を見直してほしい。	
・Wi-fi がつながりにくい	

問9 「多世代交流施設」に望む空間や雰囲気



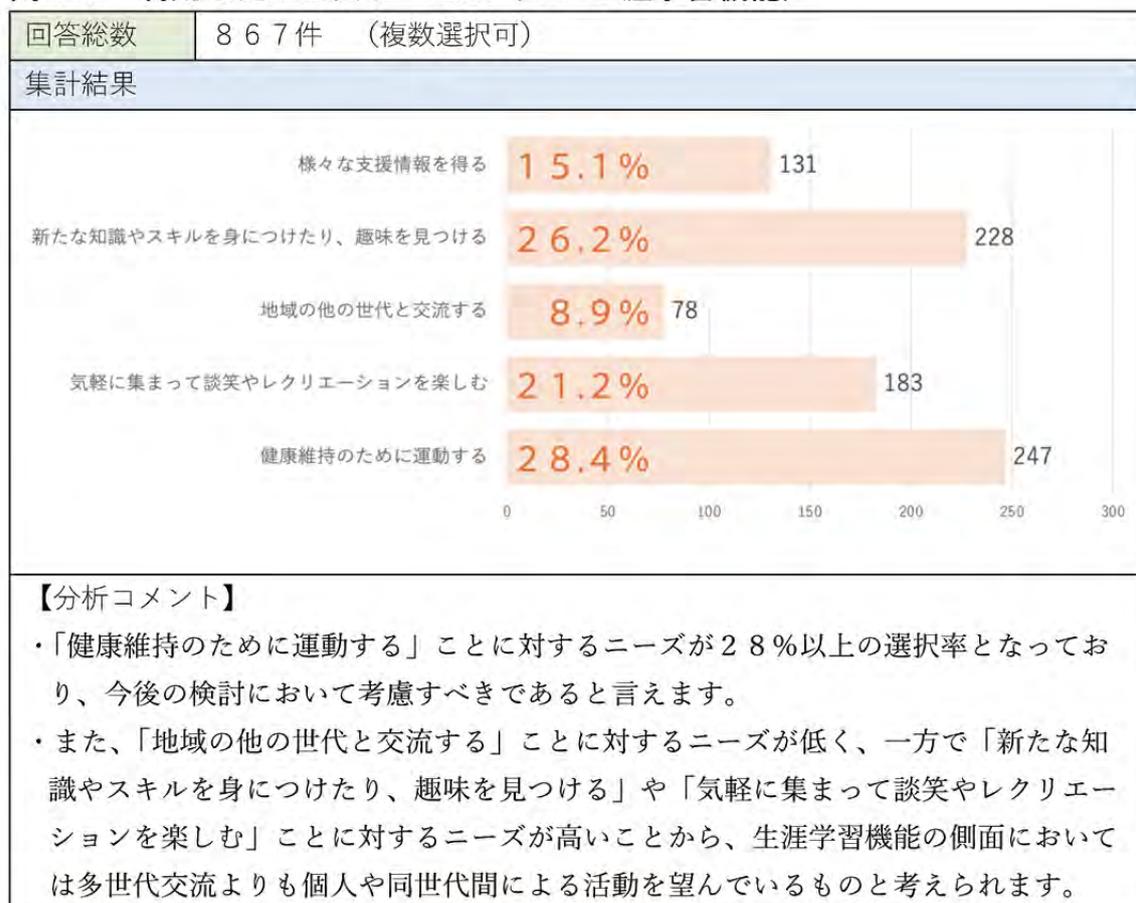
問10 利用したい公共サービス（A. 図書館機能）



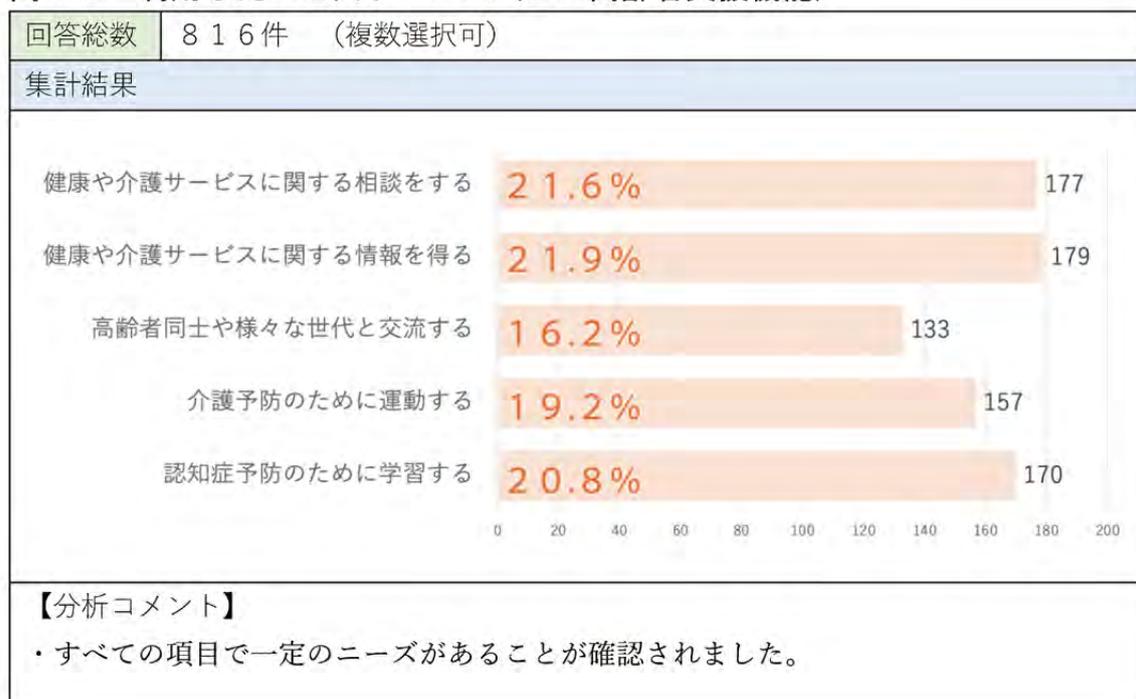
問10 利用したい公共サービス（B. 子育て支援機能）



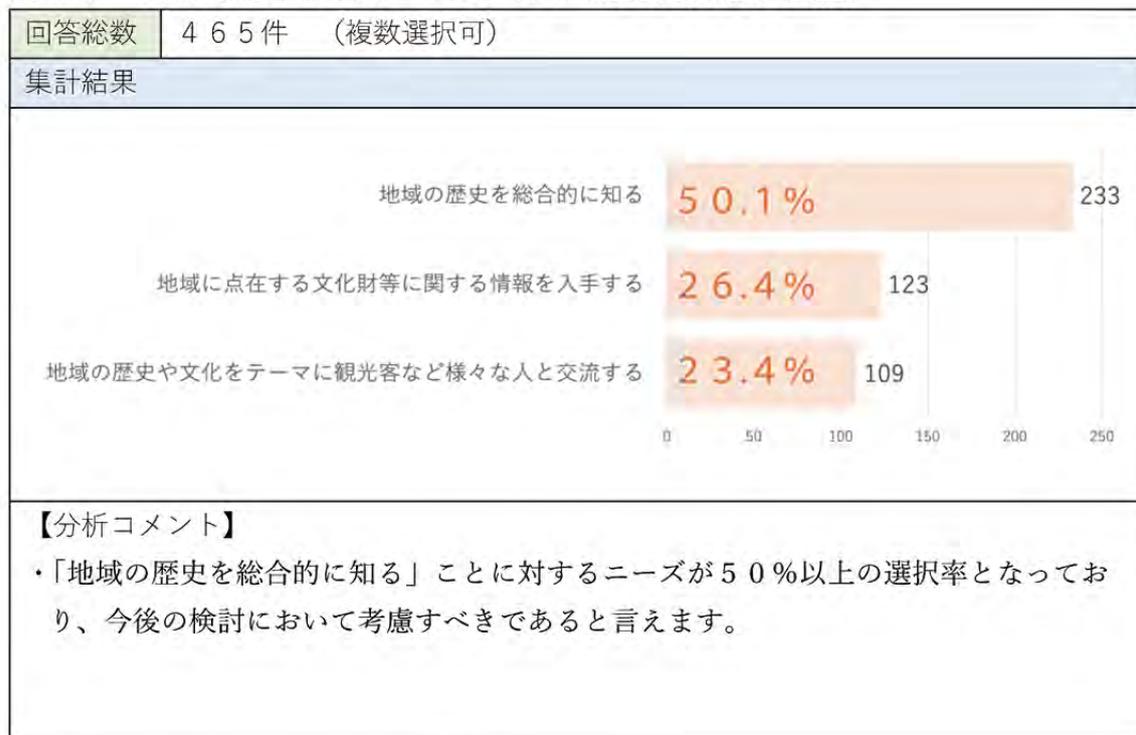
問10 利用したい公共サービス（C. 生涯学習機能）



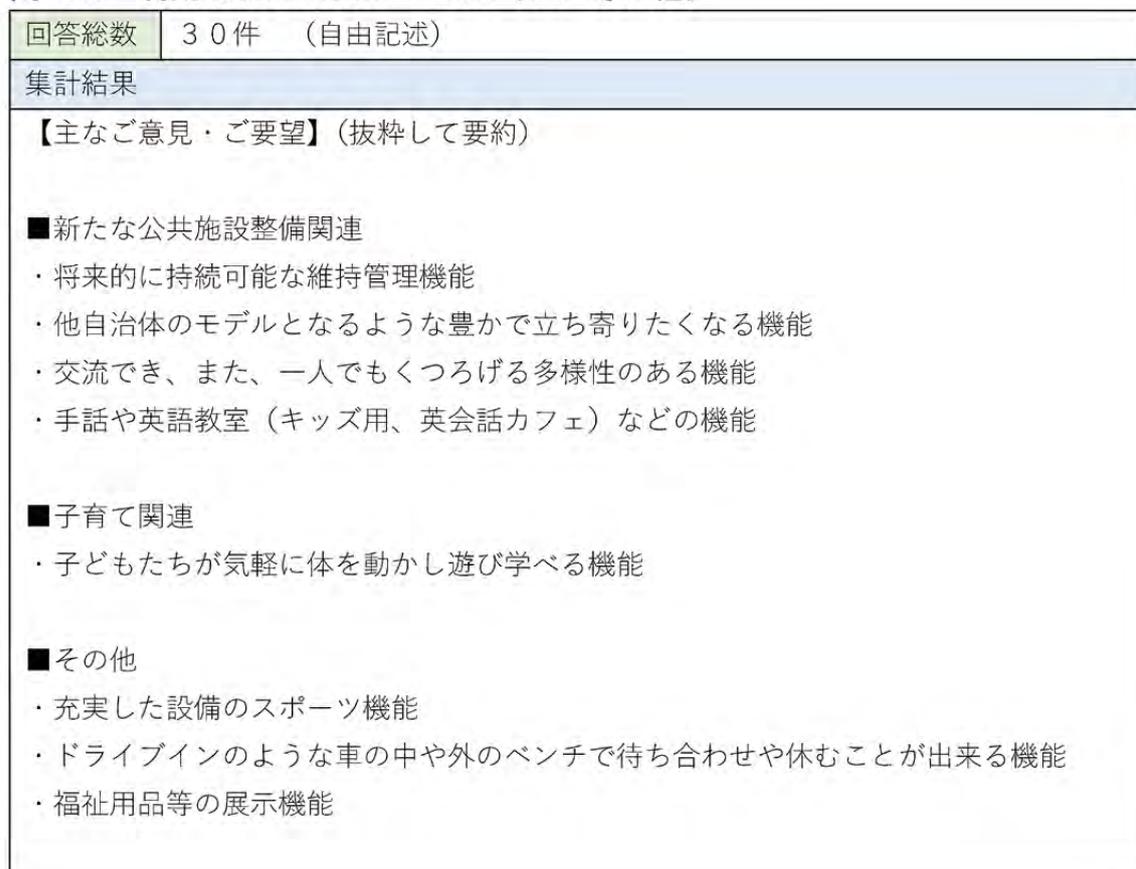
問10 利用したい公共サービス（D. 高齢者支援機能）



問10 利用したい公共サービス（E. 歴史資料展示機能）



問10 利用したい公共サービス（F. その他）



問 1 1 「多世代交流施設」と一緒に整備してほしい機能



問 1 2 建設候補地に求める条件

回答総数 1 4 5 5 件 (複数選択可)

集計結果



【分析コメント】

- ・「市の中心地域にあり、アクセスしやすいこと」および「災害や交通などの危険が少なく、誰もが安心・安全に利用できること」が条件とする回答が多く、いずれも22%以上の選択率となっており、今後の検討において考慮すべき条件と言えます。
- ・「落ち着いた環境で利用できること」を条件とする回答も比較的多く、20%近い選択率となっており、今後の検討において考慮することが望ましい条件と言えます。

その他、ご意見・ご要望

回答総数	134件 (自由記述)
集計結果	
【主なご意見・ご要望】(抜粋して要約)	
<p>■新しい公共施設への期待</p> <ul style="list-style-type: none">・今後のイベント企画など期待しています！・道の駅のような施設があると暮らしがもっと豊かになると思います。・みんな平等に公平にサービスを楽しめると良い。・利用者が落ち着いて穏やかな気持ちで過ごせる施設が良い。・親子や孫と一緒に参加できるワークショップなどが充実してほしい。・今までの西之表市にない目新しい施設が良い。・少人数でも利用できる施設だと利用者が増えそう。・地元に住んでいる市民を大切に考えた施設になってほしい。 <p>■整備事業に対する懸念</p> <ul style="list-style-type: none">・施設を建てるだけでなく、しっかり管理、活用できるものを整備してほしい。・ハード面だけでなくソフト面と共に充実化すべき。・財政状況を考えると過度に大きな施設は必要ないと思う。・防災センターの機能を併せ持つ必要があるのではないか。	

§ 02. 市民ワークショップの結果

目次

1. ワークショップの概要	53
① ワークショップの目的	53
② ワークショップの形式	53
③ 参加者の構成	53
④ ワークショップの全体像	54
⑤ ワークショップの実施スケジュール	54
2. ワークショップの実施報告	55
グループ①：中学生	55
グループ②：高校生	58
グループ③：子育て世代	62
グループ④：商工会（青年部・女性部）	66
3. 西之表市の課題と魅力の整理	69
4. 整備機能のアイデア	70
①整備機能の整理	70
②整備によって導きたい西之表市の将来イメージ	71

1. ワークショップの概要

① ワークショップの目的

新たな教育交流施設の整備に向け、西之表市の次代を担う中学生・高校生・子育て世代・商工会（青年部・女性部）を対象に、意見を聴取するために開催しました。

② ワークショップの形式

ワークショップの形式は、参加者の本音を引出しやすいグループインタビュー方式を採用しました。

■グループインタビューとは

モデレーター(司会者)が進行し、調査対象者に質問をしながら会話を進めます。

より活発な話し合いを促すために、グループは同年代・同性などで構成されます。例えば「女性・30代・専業主婦・掃除好き」といった属性です。

属性をある程度揃えることで、より深い議論が期待できる上に、前提知識を説明する手間を省くことができます。



■メリット

- ①参加者の本音が出やすい
- ②触発作用が期待できる
- ③言葉以上の情報を収集できる
- ④比較的短い時間で調査できる
- ⑤グループ間の相違を比較できる

■従来型との比較

形式	グループインタビュー	従来型
人数	4～8名	5～6名
時間	60～120分	任意
目的	事業へのニーズとその根拠を理解する	問題の抽出や解決策のアイデア出し
最適テーマ	複数名で会話が弾むテーマ	予備調査等で明らかになった課題

③ 参加者の構成

ワークショップの参加者の構成については、より気軽に活発な発言を引き出すために、立場や背景がなるべく近いメンバーで構成すべく、下記の4つのグループに分けて実施しました。

グループ①：中学生	5名
グループ②：高校生	5名
グループ③：子育て世代	10名（2テーブル）
グループ④：商工会（青年部・女性部）	6名

④ ワークショップの全体像

ワークショップでは、西之表市の現状や検討内容について理解を深めつつ、グループごとに会話を通して魅力や課題を確認し、目指すべき将来イメージについてグループごとに共有化を図りました。そしてその中から、多世代交流施設として整備すべき機能のアイデアについて意見交換を行いました。

回数	全2回	
時間	90分	
各回内容		
1	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（事業説明） ・検討内容の説明 ・西之表市の現状についてどう思う？ →魅力と課題の抽出
2	整理	<ul style="list-style-type: none"> ・西之表市の将来像を共有し、本計画へのフィードバックを考えよう。
最終目標		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に理想像としての事業イメージをまとめる。（導入機能・候補地・まちの姿など）

⑤ ワークショップの実施スケジュール

ワークショップは下表のスケジュールで実施しました。

日時		グループ名	回数
9月27日(金)	16:30 - 17:50	中学生	1回目
	18:30 - 20:00	商工会（青年部・女性部）	
9月28日(土)	9:00 - 10:30	子育て世代	
	13:00 - 14:30	高校生	
10月11日(金)	16:30 - 17:50	中学生	2回目
	18:30 - 20:00	商工会（青年部・女性部）	
10月12日(土)	9:00 - 10:30	子育て世代	
	13:00 - 14:30	高校生	

2. ワークショップの実施報告

ワークショップの実施内容について、以下のとおり報告します。
尚、報告は進行過程が分かりやすいように、グループ毎にまとめるものとします。

グループ①：中学生

■ 1回目

日時	9月27日(金) 16:30 - 17:50
場所	種子島中学校
参加者	中学生グループ 5名
実施結果	<p>■テーマ①：検討概要の説明を聞いて思ったこと。</p> <ul style="list-style-type: none">・図書館に併設して学習スペースがたくさんあると良い。 →ミキスクエア(福岡)に行ったことがある。ホール・会議室もあって良かった。・観光案内所のような施設が必要だ。 →フェリーで来島する観光客が多いので情報提供サービスがあると便利ではないか。・図書館にカフェがあれば、普段、図書館に行かない人にとっては利用の理由になる。 →図書館は静かな場所で、カフェはにぎやかな場所という特徴を活かす。・高校生・中学生の遊べるところが必要だ。 →西之表市には遊べる場所が少ない。 →体育館で球技をするか、誰かの家で遊ぶしか選択肢がない。 →体育館が予約でいっぱい、利用できないととても残念な気持ちになる。・お年寄りと関わったことが少ない →どうすれば関わりを持てるのかが分からない。 <p>■テーマ②：西之表市の魅力や課題って何だろう？</p> <p>*下線は本事業において参考になりそうな項目</p> <p>○魅力</p> <ul style="list-style-type: none">・<u>自然が美しい</u> (海・砂浜・星空)・どこからでも海が見えること・<u>ひとが親切</u> (付き合いやすい)・<u>食べ物が美味しい</u> (魚介類・安納芋・焼酎)・アートベンチが置いてあったり、まちに<u>楽しい雰囲気</u>がある

○課題

- ・漂着ゴミが多い
- ・まちなかにゴミ箱が少ない
- ・泊まるところが少ない
- ・空き家の活用が進んでいない
→建物の老朽化の解決策になるはず
- ・wi-fi 環境が整備されていない
- ・道路のメンテナンス工事が多い
- ・島外に出ていく人が多い（若い世代が少ない）

■テーマ③：特に大切にしたいポイントは？

* これからも守っていきたい魅力や、優先的に解決したい課題など

- ・美しい自然
→将来島外に出たとしても、戻ってきた時に変わっていて欲しくない
- ・誰もがふれあえる“あったかい場所”
→親子でふれあえる場所（「鴨池みらいの森」のように絵本に囲まれた場所）
- ・地域の伝統文化（地域子ども会・敬老会・蚕宮城・トシドン など）
→地域のことを楽しみながら、より詳しく知ることができる
→非日常を味わうことができる
→担い手不足が課題

以上

■ 2回目

日時	10月11日(金) 16:30 - 17:50
場所	種子島中学校
参加者	中学生グループ 5名
実施結果	
<p>■ テーマ①：どんなまちを目指したら良いか？</p> <p>* 前回は振り返りながら改めて目指すべきまちづくりの方向性を確認しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自然と建物が調和しているまち・ 住みやすく過ごしやすいまち・ 西之表市を好きなひと（関係人口）が多くなるようなまち・ 人種や性別の分け隔てなく、多世代が触れ合えるまち <p>■ テーマ②：どんな施設（機能）が必要か？</p> <p>* テーマ①を実現するために必要な施設（機能）について意見交換しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 児童館・ 多目的ホール・ 遊園地・ 学習スペース・ 図書館・ 観光客の目的となる機能 <p>■ テーマ③：どんな場所にあったら良いか？</p> <p>* テーマ②で挙げた施設（機能）を整備するとしたらどんな場所が良いか意見交換しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 近くに様々な施設がある（市役所・港）・ 標高が高い場所（津波の危険性が低い場所）・ 観光客が訪れやすい場所 <p>■ テーマ④：将来イメージをまとめよう。</p> <p>* これまでのテーマ全てを踏まえ、多世代交流施設整備を通して目指すべき西之表市の将来イメージについてまとめました。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 旧榕城中跡地で、市民や観光客がそれぞれの興味や趣味にあった活動をしてもらうことで、ここに来れば何か楽しめることがあるから、また西之表市に来たいと思えるまち・ 旧榕城中跡地で、小さい子どもからお年寄りまで誰もが過ごしやすい楽しめて、退屈しないまち・ 観光客向けの種子島の歴史や文化コーナーがあったり、学生が学習できるスペースがあるなど、どちらにとっても便利な図書館があるまち・ 旧榕城中跡地で、学生がカフェのある図書館で自分のペースで学んだり資格取得ができたりするまち・ 旧榕城中跡地で、地元に住んでいる幅広い世代の人たちが、それぞれの目的をもって集まれるまち <p>以上</p>	

グループ②：高校生

■ 1回目

日時	9月28日(土) 13:00 - 14:30
場所	西之表市民会館
参加者	高校生グループ 5名
実施結果	
<p>■テーマ①：検討概要の説明を聞いて思ったこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な機能が複合化すると便利で良い。 ・そもそも既存の公共施設(市民会館・図書館)で何ができるのか知らない。 ・立地については、年齢によってアクセスの難易度が変わるはず。 ・いままで種子島になかった施設にしてほしい。 ・図書館があれば暇な時に立ち寄ることができる。 <ul style="list-style-type: none"> →昼食スペースがない ・高校生にできないことの実践を期待している。 <ul style="list-style-type: none"> →島をPRして移住者を増やす・新しい子育て支援の取り組み など →高校の総合探求の時間で様々なアイデアを考えても、高校生ではできないことが多い。(資金面・技術面など) ・コンテナハウス(馬毛島工事完了後)の活用ができると良い。 ・いろんな世代が使える施設になると良い。 <ul style="list-style-type: none"> →自然を取り込んだ施設(キレイな施設) →映画館・カラオケ・ショッピング(PC・服・本)・スポーツ・食堂 など <p>■テーマ②：西之表市の魅力や課題って何だろう？</p> <p>*下線は本事業において参考になりそうな項目</p> <p>○魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子島の中心地 ・<u>良好な自然がある</u>(空気・山) <ul style="list-style-type: none"> →子育てにも有利なはず ・実は<u>様々な歴史や文化</u>がある ・<u>ひとが親切</u>(優しい・のんびり屋) ・<u>落ち着ける雰囲気</u>がある(みんな親戚みたいで安心できる) ・<u>特産品</u>(安納芋・トビウオ) 	

○課題

- ・ 人手不足と若者の少なさ (人口流出)
 - 施設を作っても運営が難しい
 - 施設を作ってもそもそも利用者となりうる母数が少ない
- ・ 公共施設が老朽化している
 - 利用率の低い施設が多いはず
- ・ 多世代が交流する機会がもっとあって良い
- ・ 魅力を PR できていない (安納芋以外にイメージがない)
- ・ 医療が逼迫している (看護師等のスタッフ不足)
- ・ 観光客にとっての移動手段 (タクシー・レンタカーなど) がない
 - 情報や宿泊所も不足している
- ・ 大都市から直接来島できる交通手段がない

■テーマ③：特に大切にしたいポイントは？

* これからも守っていきたい魅力や、優先的に解決したい課題など

- ・ 西之表 (種子島) の アイデンティティ (伝統や文化) を守る
- ・ 自然 (森・海) の豊かさ
- ・ 施設の老朽化の改善
 - 地震が来たら危ない
 - 既存施設の利活用を含む
- ・ 市民の娯楽のための場づくり
 - 1日中遊び回れて、退屈しないこと
- ・ 人の温かさ
 - 地域交流 (声かけ) や、心の豊かさを維持する

以上

■ 2回目

日時	10月12日(土) 13:00 - 14:30
場所	西之表市民会館
参加者	高校生グループ 5名
実施結果	
<p>■ テーマ①：どんなまちを目指したら良いか？</p> <p>* 前回は振り返りながら改めて目指すべきまちづくりの方向性を確認しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすいまち。 ・中心地以外も魅力があるまち。 ・多世代がイキイキとして活気があるまち ・世代問わず快適に暮らせるまち ・人と自然の良さが感じられるまち ・近所や地域にコミュニケーションの機会があふれているまち ・若者が増えて活気があり、世代層が広がっているまち ・住みやすいまち（交通・治安） <p>■ テーマ②：どんな施設（機能）が必要か？</p> <p>* テーマ①を実現するために必要な施設（機能）について意見交換しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子連れで遊べる機能 ・親同士で話せる場所 ・ショッピングモール ・コンサートホール ・映画館 ・みんなが使えるフリースペース ・道の駅 ・海に近いホテル ・快適なキャンプ場 ・大人も楽しい広場 <p>■ テーマ③：どんな場所にあったら良いか？</p> <p>* テーマ②で挙げた施設（機能）を整備するとしたらどんな場所が良いか意見交換しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然が多いところ ・海の近く（種子島ならではの） ・アクセスが良い場所（住宅地） ・わかさ公園周辺 ・港周辺 ・安全性（津波など） ・旧榕城中跡地（広い・小学校と近い・住宅地） <p>■ テーマ④：将来イメージをまとめよう。</p> <p>* これまでのテーマ全てを踏まえ、多世代交流施設整備を通して目指すべき西之表市の将来イメージについてまとめました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で種子島の子どもから大人まで、体を動かしたりのんびりしたり、のどかで楽しく1日中飽きないまち ・若者がレジャーを楽しめるまち 	

- ・ 広い芝生のある公園で子どもから大人までが集まって、ウォーキングしたりしているようなのどかな雰囲気のあるまち
- ・ 屋根のある場所で若者が遊んだり買い物したりして楽しめるまち
- ・ 海の近くで多世代が交流しているような仲の良いまち
- ・ アクセスの良い場所で多世代と一緒にイベントに参加したり会話するなど交流が多くて温かい雰囲気のあるまち
- ・ 公園で子連れの家族が他の家族とコミュニケーションが取れて子育てしやすいまち
- ・ 住宅地周辺で親子が休日に遊びながら過ごせる子育てしやすいまち
- ・ 港近くの道の駅で観光客が地産品を買って、種子島を好きになってトッピーで帰ってもらえるようなまち

以上

グループ③：子育て世代

■ 1回目

日時	9月28日(土) 9:00 - 10:30
場所	西之表市民会館
参加者	子育て世代グループ 7名
実施結果	
<p>■テーマ①：検討概要の説明を聞いて思ったこと。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 明るい図書館が良い (例：鹿児島市の天文館図書館)・ 親子で快適に過ごせる場所になれば良い (ワンオペでも安心な場所)<ul style="list-style-type: none">→ 座りながら (ベビーチェア) 子どもに食べさせられる→ 涼しい→ 休日利用が可能→ 騒いでも大丈夫→ おむつ台がある・ 体調が悪い子どもの預かり機能 (病児保育) があると良い・ 雨の日に子どもが遊べると良い・ いつもと違う体験ができる施設になると良い・ いろんな人とコミュニケーションが取れる施設になると良い・ パパ同士で集まれる場所があると良い <p>■テーマ②：西之表市の魅力や課題って何だろう？</p> <p>* 下線は本事業において参考になりそうな項目</p> <p>○魅力</p> <ul style="list-style-type: none">・ 綺麗な海がすぐ近くにある・ <u>人が優しい</u><ul style="list-style-type: none">→ 気さく過ぎて、移住したばかりの人には驚き・ 観光スポット (鉄砲伝来)・ <u>祭りが多い</u>・ 手厚い子育て支援 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 観光客 (子連れ) の細かいニーズに対応できていない<ul style="list-style-type: none">→ おむつ替えスペースの所在地が分からないなど・ 野菜が高い・ 子ども用品 (服など) を買えるところがない	

- ・ 0～3歳向けのアクティビティ（コンテンツ）がない
- ・ 子どもの部活などの遠征にお金が掛かる
- ・ 島にいながら仕事がしにくい
→Wi-fi の設置に制度的な時間を要する

■ **テーマ③：特に大切にしたいポイントは？**

* 次回までに各自で検討し、冒頭で意見交換を行う。

以上

■ 2回目

日時	10月12日(土) 9:00 - 10:30
場所	西之表市民会館
参加者	子育て世代グループ 8名

実施結果

■ テーマ①：どんなまちを目指したら良いか？

* 前回は振り返りながら改めて目指すべきまちづくりの方向性を確認しました。

- ・ 子どもも親も楽しめる（リフレッシュ）できるまち
→ 高齢者とイベントを通して触れ合える
- ・ 雨でもノビノビ安心して楽しく過ごせるまち
- ・ 安全で充実した子育て環境があるまち
→ 清潔なトイレや十分な駐車場
- ・ 島の自然環境を大事に考えるまち
→ ゴミを拾うとポイントがもらえる・子ども達と砂浜清掃 など
- ・ 大人（高齢者）が元気なまち

■ テーマ②：どんな施設（機能）が必要か？

* テーマ①を実現するために必要な施設（機能）について意見交換しました。

- ・ 公民館のような機能 → 高齢者とイキイキ交流できる（昔あそびなど）
- ・ 児童館＋カフェ
- ・ フードコート（子連れでも利用しやすい席がある）
- ・ 屋内遊び場（0歳～小学生）

■ テーマ③：どんな場所にあったら良いか？

* テーマ②で挙げた施設（機能）を整備するとしたらどんな場所が良いか意見交換しました。

- ・ 駐車場が確保できる場所
- ・ 高齢者にとって利便性が良い中心市街地
→ 子連れは車移動なのでどこでも良いはず
- ・ あっぱーらんど近辺（遊ばせやすい）
- ・ ノビノビ感がある場所（バスで行ける距離感）
→ わかさ公園くらいの距離、あっぱーらんどはギリギリ許容範囲内

■ テーマ④：将来イメージをまとめよう。

* これまでのテーマ全てを踏まえ、多世代交流施設整備を通して目指すべき西之表市の将来イメージについてまとめました。

- ・ 市内のあちこちで子育て世代が余裕を持って過ごせて、子育てが楽しめるまち
- ・ 種子島全体で、子育て世代や高齢者が新しい経験を通してふれあうことができ、ストレス

なく楽しく暮らせるまち

・種子島全体で、年齢を問わず、イベント交流を通してイキイキ・ノビノビ遊べて、笑顔で楽しく暮らせるまち

・自然が豊かで海がキレイな種子島で、全ての市民がイキイキと楽しく安心して過ごせるまち

・市内全域で子育て世代や高齢者が気軽に交流し、寄り添い支え合うまち

以上

グループ④：商工会（青年部・女性部）

■ 1回目

日時	9月27日(金) 18:30 - 20:00
場所	西之表市民会館
参加者	商工会(青年部・女性部)グループ 6名

実施結果

■ テーマ①：検討概要の説明を聞いて思ったこと。

- ・ カフェと図書館が併設していると良い（例：佐賀県の武雄図書館）
 - 若者が利用したくなる施設
 - ゆっくりと時間が流れる場所
 - 高齢者や子どもにも喜ばれる
- ・ 雨の日に子どもが遊べるスペースがあると良い
- ・ 大人にとっての娯楽施設があると良い
 - 屋根付 BBQ 広場、カラオケ、ボーリング、麻雀、卓球 など
- ・ 災害備蓄スペースも不足していると聞いている
- ・ 図書館をほとんど使っていない人もいる

■ テーマ②：西之表市の魅力や課題って何だろう？

* 下線は本事業において参考になりそうな項目

○ 魅力

- ・ 自然が美しい（海・川・山）
- ・ 歴史（鉄砲）
- ・ 多文化を受け入れてきた精神性
- ・ コミュニティの狭さ（人の素直さ・素朴さ）
 - 小学生が挨拶してくれる
- ・ 自給自足の生活をすることもできる

○ 課題

- ・ 島外の関係者が増えている
- ・ 道の駅のような観光・物産販売の拠点がない
- ・ 娯楽のバラエティ不足
- ・ 仕事の選択肢が少ない
- ・ コミュニティの狭さ（干渉される）

■テーマ③：特に大切にしたいポイントは？

- ・ コミュニケーションの場づくり
→ 娯楽も含めて
- ・ 子どもが遊べる環境づくり
- ・ 多様性を認める場づくり
- ・ 子どもの生きる力を育む教育的な環境づくり

■その他

* 次回までに、多世代交流施設の完成後の施設利用イメージとして、商工会メンバーの観点から連携可能なアイデアがあればまとめてくる。

以上

■ 2回目

日時	10月11日(金) 18:30 - 20:00
場所	西之表市民会館
参加者	商工会(青年部・女性部)グループ 7名

実施結果

■ テーマ①：どんなまちを目指したら良いか？

* 前回は振り返りながら改めて目指すべきまちづくりの方向性を確認しました。

- ・ 都会との差が少ないまち
→ 種子島に戻ってきやすくなる
- ・ 留学生を呼び込めるまち（寮や民宿の充実化）
- ・ 大人（高齢者）が元気なまち
- ・ 駐車場や公衆トイレなどが整備されていて観光客に快適なまち
- ・ 暮らしやすく観光客が増えるようなまち

■ テーマ②：どんな施設（機能）が必要か？

* テーマ①を実現するために必要な施設（機能）について意見交換しました。

- ・ 観光客が来たくなる多機能複合施設
- ・ 世代を問わず交流ができる娯楽施設
- ・ 体験施設・工場見学（安納芋・さとうきび・はさみ）

■ テーマ③：どんな場所にあったら良いか？

* テーマ②で挙げた施設（機能）を整備するとしたらどんな場所が良いか意見交換しました。

- ・ 多世代交流・アクセス・防災の面で旧榕城中跡地が適切として意見が一致

■ テーマ④：将来イメージをまとめよう。

* これまでのテーマ全てを踏まえ、多世代交流施設整備を通して目指すべき西之表市の将来イメージについてまとめました。

- ・ 市街地から徒歩で行ける場所で、あらゆる世代の観光客が娯楽や趣味、体験などを通して楽しく活気あるまち
- ・ 市街地から徒歩で行ける旧榕城中跡地で、小中高の児童・生徒が、共に遊び、共に地元の文化に触れ、活気があって住み良いまち
- ・ 屋上で若者がナイトプールでカクテル飲んで楽しいまち
- ・ 旧榕城中跡地で大人たちが見守る中、子ども達が本や遊具で遊び、子育てしやすいまち
- ・ 旧榕城中跡地で高齢者が趣味を満喫していて、楽しい老後を送れるまち

以上

3. 西之表市の課題と魅力の整理

下図はワークショップで共有した西之表市の課題と魅力の整理したものです。

魅力としては「自然・食」「ひと」に関する項目が多く、課題としては「暮らし」に関する項目が多く挙げられました。



4. 整備機能のアイデア

①整備機能の整理

下図はワークショップで出された機能アイデアを整理したものです。

総括として、今後のより良いまちづくりのためには、若者や子育て世代のニーズに応えつつ、高齢者を含めた市民の居場所となるような施設づくりを通して、世代を超えた交流機能の整備が求められていることが分かりました。



②整備によって導きたい西之表市の将来イメージ

下図はワークショップを通して醸成された将来イメージを整理したものです。
今後の施設計画や整備事業を通して意識すべき方向性として提示します。

活用する魅力 課題の解決	将来イメージ	
	中心市街地 (良アクセス・徒歩圏内) *旧榕城中跡地	市全域 (種子島全域)
「自然・食」 の魅力を活かす		<ul style="list-style-type: none"> ・また来たいと思えるまち ・レジャーを楽しめるまち ・のどかな雰囲気のあるまち ・安心して過ごせるまち
「ひと」 の魅力を活かす		<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良いまち ・ふれあいあるまち ・寄り添い支え合うまち
「くらし」 をより良くする	<ul style="list-style-type: none"> ・活気あるまち ・退屈しないまち ・便利な図書館があるまち ・集まる場所があるまち ・楽しい老後を送れるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすいまち

§ 03. 西之表市立図書館の概要

■図書館基本情報

基本情報	
住所	鹿児島県西之表市西之表 9786
開館時間	夏季（4月～10月）：9時～19時
	冬季（11月～3月）：9時～18時
休館日	毎週月曜日（但し、祝祭日が重なる場合は休み明けが休館）
	年末年始（12月29日から1月3日）
運営体制	
管理者	西之表市 社会教育課
職員	館長 非常勤職員（火・木・土出勤） 職員 市役所会計年度職員 3名（うち司書1名）
移動図書館	貸出等：職員 ブックコンテナの配本：まちづくり公社へ委託
利用者関連情報	
利用者登録	島内に住所がある方（西之表市・中種子町・南種子町）
利用者カード	初回無料（再発行料：50円）
	カードの作成には、運転免許証や住民票など住所が確認できる書類が必要
利用者登録数 （R5年度末時点）	（市内）個人：7,349人 団体：53団体
	（市外）個人：278人 団体：3団体
	[登録数の数え方（累積、一定期間内の新規+更新 etc.）] システム内の帳票による。新規は月毎に貸出申込書より抽出。
貸出点数（R5年度）	29,125点（対前年比 105%） R4年度 27,556点
来館者数（R5年度）	12,934人（対前年比 103%） R4年度 12,480人
蔵書関連情報	
全体点数	49,946点
開架点数	（一般） 17,225点
	（絵本） 6,643点
	（児童） 7,700点
	（郷土資料） 4,831点
	（禁帯室） 2,827点
	（移動図書館車） 1,125点
	（その他） 371点
閉架点数	9,224点

館内情報	
座席数	52 席（内 一般書架 8 席、児童室 8 席、学習室 36 席）
館内飲食	館内飲食不可
その他	その他
移動図書館	
車名	あおぞら 3 号
蔵書数	約 800 冊
巡回	西之表市内各地域を月 1 回ずつ、計 3 回巡回
使用しているシステム	
富士通 WebiLis V4 ・端末数（システムが利用できる端末） 館内 OPAC 1 台 デスクトップ PC 1 台 ノート PC 3 台（1 台は BM 用） ※R6.3 月に V3 から V4 へシステム更新。R6.7 月に PC 全て入れ替え。	

■図書館の業務内容

本に関する業務	
資料の貸出・返却	資料の選書・受入・配架
資料の補修	資料の廃棄
カウンター業務	
利用者カード・通帳の登録	相互貸借（主に県立図書館）
居住地返却（県立図書館のみ）	資料の複写サービス
レファレンス業務	
施設の管理に関する業務	
館内の清掃	郷土資料室の管理
視聴覚ライブラリーの管理	学習室の管理
見学・研修等の対応	
社会科見学の受入	島内の幼稚園・小学校・中学校
職場体験の受入	島内の中学校・高校・養護学校
職員研修の受入	島内の小学校・中学校・高校の教員
司書実習の受入	短大・大学生
その他業務	
ブックスタート	乳児検診時に出向き配本
セカンドブック	3歳児検診時に出向き配本
ブックコンテナでの配本	市内の保育園・小学校に月1回50冊配本
移動図書館車での巡回	月3回巡回
図書館・移動図書館車の統計	利用者数・入館者数・貸出冊数・レファレンス件数等
図書館に関する報告書の作成	月間・上半期・下半期・年間の報告書
県・国の機関の調査への回答	公共図書館調査票・図書館年鑑等
イベント・講座等の開催	よるのとしょかんミニライブ 手製本講座（小学生以上） 自由研究講座（小学生） ブックコンシェルジュ養成講座（小学生・中学生・学校司書）

読み聞かせに関する業務	
ボランティアグループの運営	「おはなしのとびらとんとん」の運営
親子読書会	毎月第2土曜日に開催
出張お話し会	市内の小学校 児童クラブ 子育てサロン 高齢者サロン 高齢者福祉施設 寿大学等

§ 04. 西之表市立図書館の利用者アンケートの結果

目次

1. アンケートの実施概要	83
① アンケートの目的	83
② アンケートの概要	83
2. アンケートの集計・分析結果	84
問1 図書館を普段から利用しているか	84
問2① 図書館を利用する頻度	84
問2② 主な利用日	85
問2③ 主な利用時間帯	85
問3 問1で「利用していない」と答えた理由	85
問4 主な利用目的	86
問5 現在の市立図書館の満足度	86
問6 満足点や不満点	87
問7 満足するための改善点	89
問8 現在の市立図書館への交通手段・所要時間	90
問9 新しい図書館に望む機能やサービス	91
問10 新しい図書館で開催してほしいイベント等	92
問11 性別	93
問12 年齢	93
問13 お住まいの地域	94
問14 職業	94

1. アンケートの実施概要

① アンケートの目的

新たな教育交流施設の整備に向け、現在の市立図書館利用者の皆様のご意見をお聞きし、同施設の整備方針や機能・規模等の整理に役立てていくことを目的として実施しました。

② アンケートの概要

【実施期間】 令和6年11月3日～11月8日

5日間（*休館日11月5日）

【配布方法】 図書館利用者への直接手渡しによる

【回答方法】 直接聞き取り、アンケート票への記入、オンラインフォームによる

【回答総数】 41件（うち、WEB回答 5件）

2. アンケートの集計・分析結果

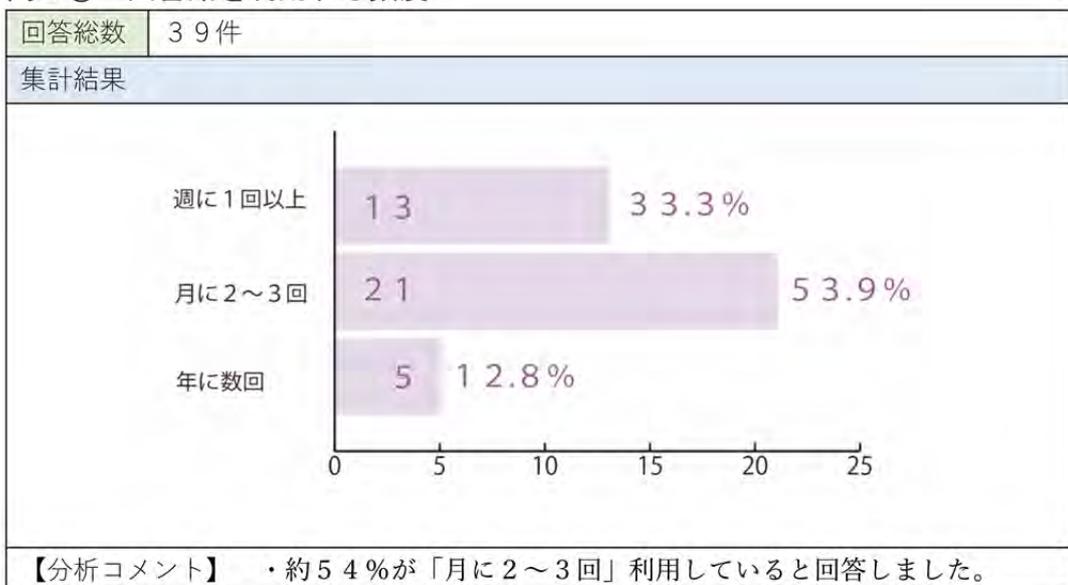
アンケートの集計および分析結果について、以下のとおり報告します。

*割合については小数点第2位以下を切り捨てとします。

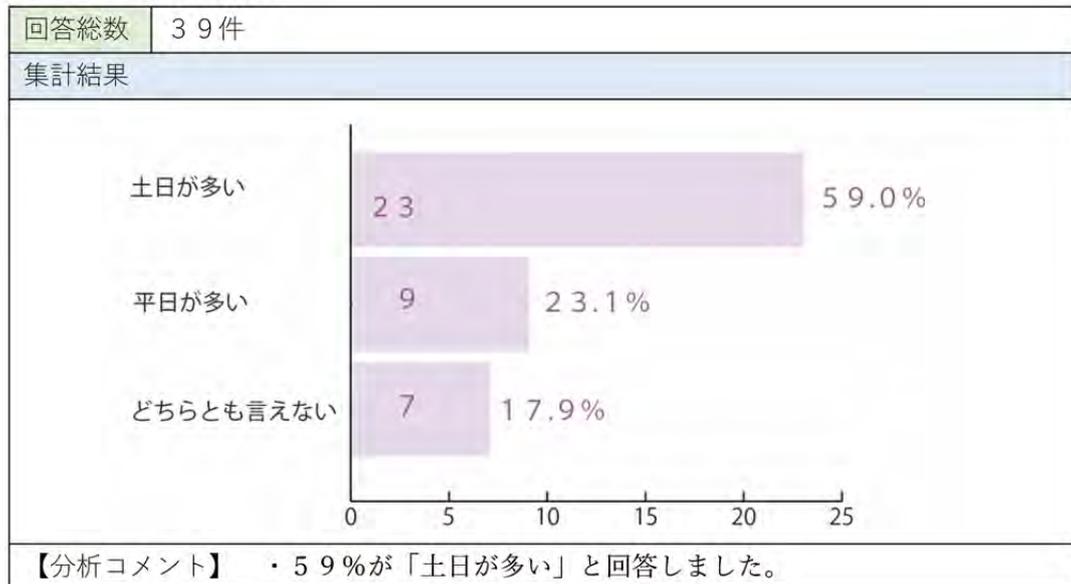
問1 図書館を普段から利用しているか



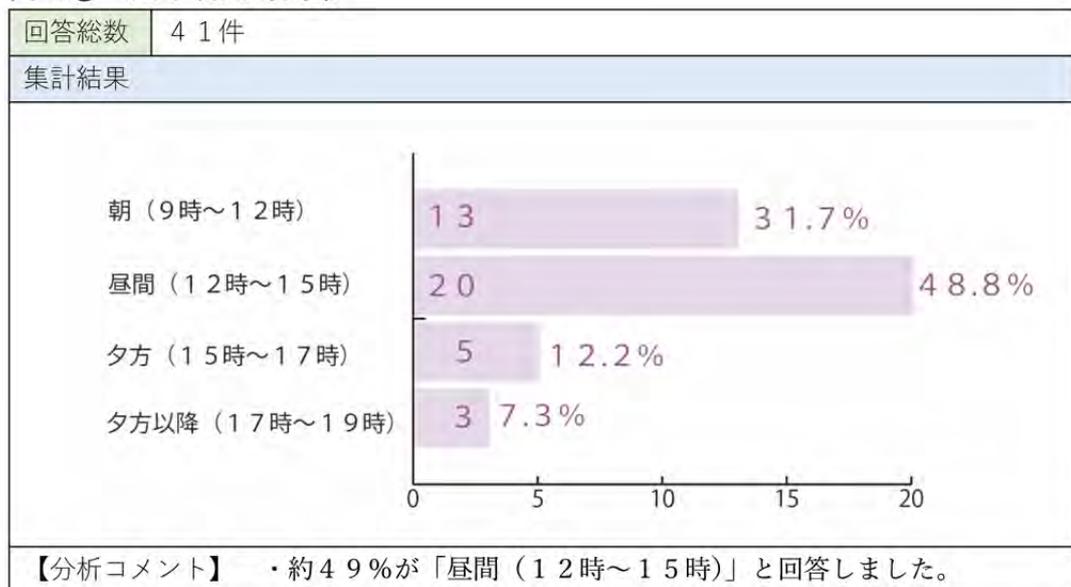
問2① 図書館を利用する頻度



問2② 主な利用日



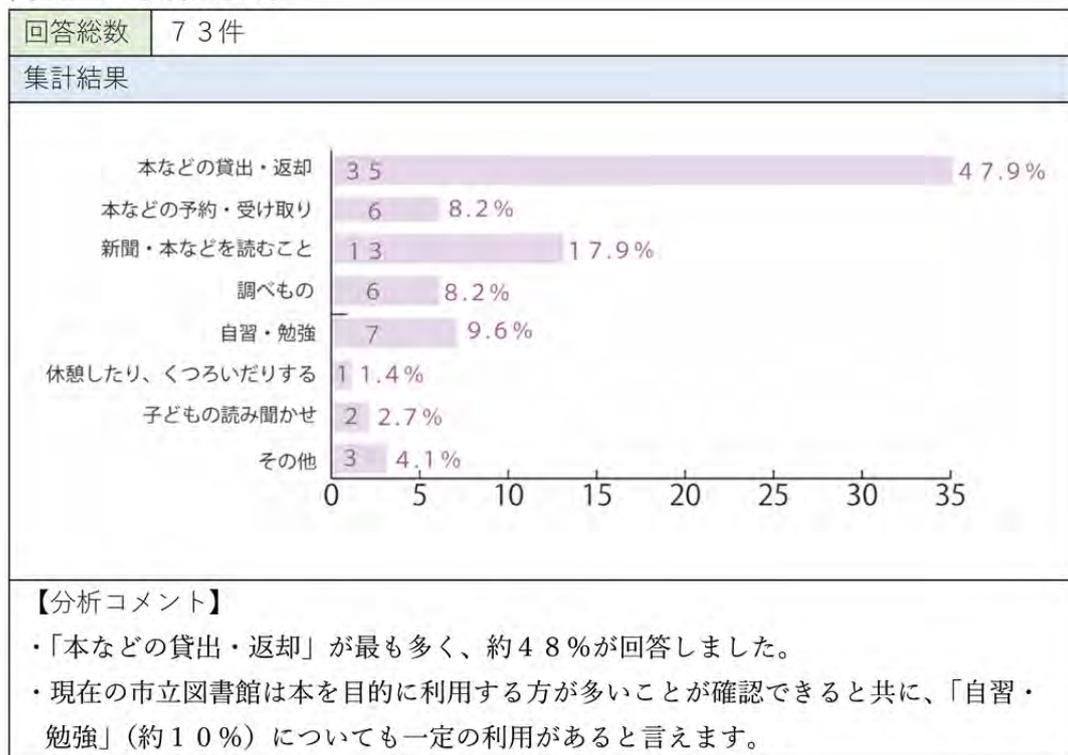
問2③ 主な利用時間帯



問3 問1で「利用していない」と答えた理由

回答総数	2件
集計結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・地理的に行きづらいため ・市外在住であり貸出利用ができないため 	

問4 主な利用目的



問5 現在の市立図書館の満足度



問6 満足点や不満点

回答総数	39件 (自由記述)
集計結果	
【主なご意見・ご要望】(要約・整理)	
■満足点	
○蔵書の量や質	
・子どもの読みたい本がたくさんあって良い	
・定期的に新刊が入るので嬉しい	
○サービス	
・好きな時に利用できる	
・人が少ないためいつでも座れる	
・図書館としての最低限の機能がある	
・雑誌が多いので満足している	
・蔵書リクエストを受付けてくれるのが良い	
・職員がとても親切	
・司書さんが素敵な本をオススメしてくれる	
・貸出や返却もスムーズに対応してくれる	
・とてもよく整理されていて本が探しやすい	
・階段の踊り場にある掲示板が毎月かわいい	
・図書通帳があるのが嬉しい	
○施設・設備	
・自習室の席数が多い	
・居心地が良い	
・落ち着いて静かなところ	
・清潔感があって良い	
・3階の見晴らしが良い	
○アクセス・駐車場	
・アクセスが良い	
・広めの駐車場で良い	

■不満点

○蔵書の量や質

- ・読みたい本（新刊）が少ない
- ・新刊が少ない
- ・本の数・種類が少ない
- ・CD やビデオもない
- ・法律書が少ない
- ・シリーズものの本が途中までしかなかったりする

○サービス

- ・前に住んでいた地域（島外）の図書館に比べると劣る
- ・本の検索機「貸出 OK」と出ている、表示された場所に本がない
- ・探している本をプリントアウトして司書の方に聞けると良い
- ・シリーズものの本がバラバラに別の書棚にあったりする
- ・デジタル化がより進むとより良い

○施設・設備

- ・建物が古い
- ・昼食を食べる場所がない
- ・静かに学習できるスペースがあると良い
- ・自習室に PC 作業可のスペースがあると良い
- ・もう少しゆっくりくつろげる場所であってほしい
- ・階段を登るのが大変
- ・机や椅子が少ない
- ・空調が時期によってオフになっている
- ・トイレが古い
- ・読書スペースが狭い
- ・1階に全ての機能が揃っていると利用しやすい
- ・小学生以上がちゃんと椅子やテーブルで本を読めるように、色んな家具があると良い。
- ・本棚の下段が見にくい

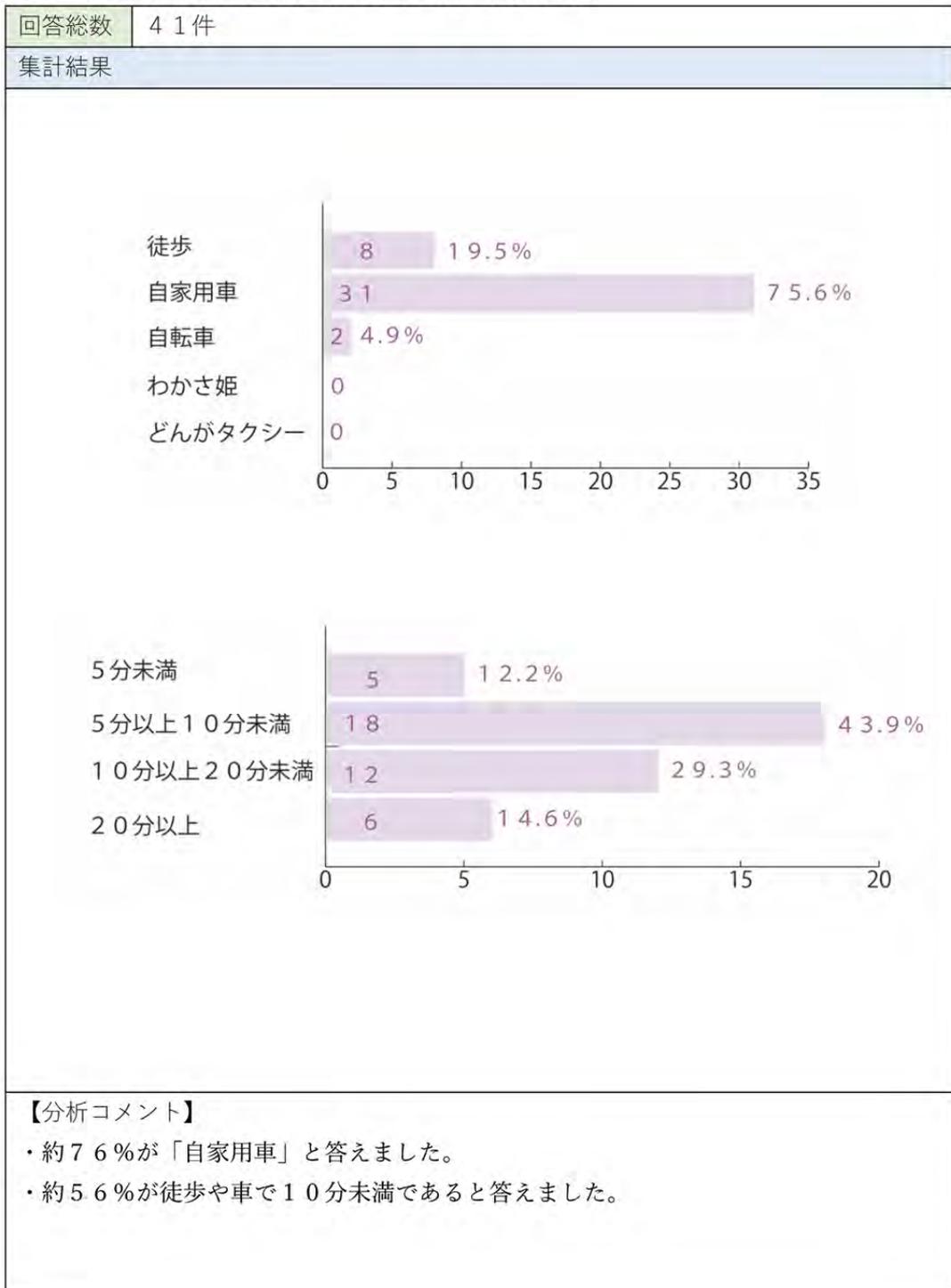
○アクセス・駐車場

- ・停めにくい
- ・台数が少ない
- ・夕方は混雑する

問7 満足するための改善点

回答総数	15件 (自由記述)
集計結果	
<p>【主なご意見・ご要望】(要約・整理)</p> <p>○蔵書の量や質</p> <ul style="list-style-type: none">・料理や裁縫など参考書が増えると良い・いろんなジャンルの本を増やしてほしい・子ども向けの映画などを題材にしたアニメブックがあると良い。・大人向けの本が充実してほしい <p>○サービス</p> <ul style="list-style-type: none">・貸出状況がネットで分かりやすく閲覧できると良い・ビデオやCDを視聴するなど、幅広い使い方ができるようにしてほしい・西之表市民でなくても借りられると良い・開館時間を延ばしてほしい・職員を増やしてサービスが行き届くようにしてほしい <p>○施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none">・鹿児島市の天文館図書館のように、子どもが楽しみながら滞在できるソファや家具があると良い・本棚が低くて選びにくい・読書以外の方も気軽に立ち寄り、休憩できたり、小規模イベントにも活用できる多目的スペースを併設してはどうか。・路線バスがなく徒歩帰宅される方や、出航までの待機場所としても活用できると良い・利用者が入りやすい明るい雰囲気大切。・階段の上り下りが辛いので、1階にあってほしい(バリアフリー)・トイレを洋式にほしい・雨漏りを改善してほしい・夕方はすぐ薄暗くなるので、温かみのある照明にする・ひとりでもゆっくり本が読めるような環境づくり <p>○アクセス・駐車場</p> <ul style="list-style-type: none">・港の近くに移転してはどうか。・駐車場を広く平らにする	

問8 現在の市立図書館への交通手段・所要時間



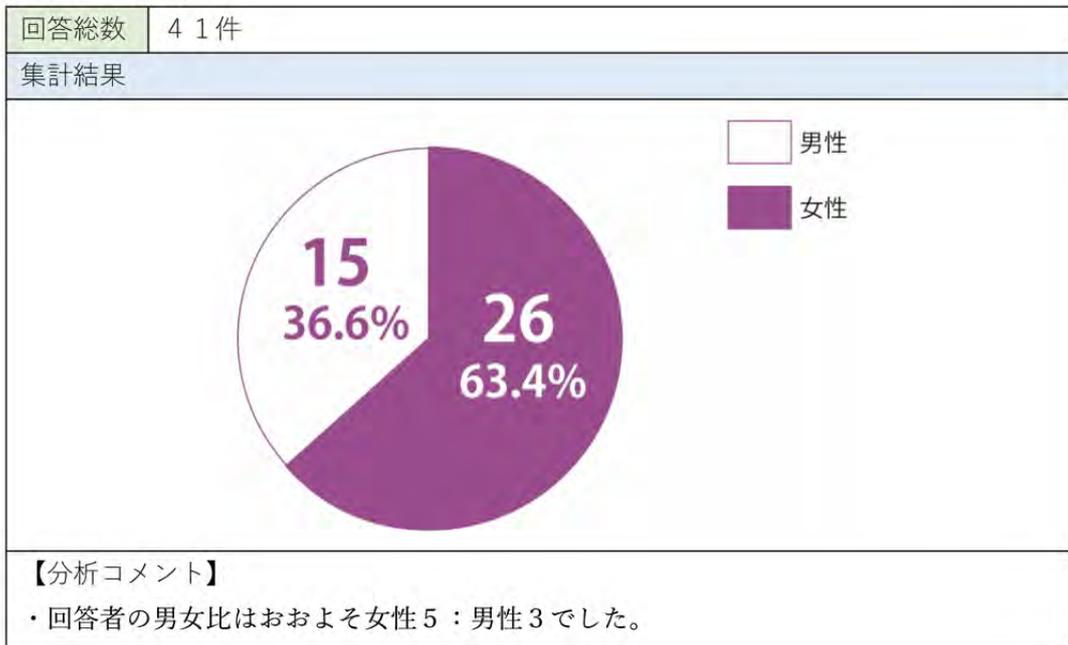
問9 新しい図書館に望む機能やサービス

回答総数	33件 (自由記述)
集計結果	
<p>【主なご意見・ご要望】(要約・整理)</p> <p>*数字は同意見の数</p> <p>○機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ(飲食コーナー含む): 20 ・子どもが安心して遊べる広場(屋内・屋根付き): 3 ・1日ゆっくりと過ごせる場所: 6 ・仕事できるスペース(読書空間と分ける): 3 ・店舗(日用品・特産品の販売): 2 ・ジム: 3 ・温泉: 2 ・緑が多い読書空間 ・明るく開放的な空間: 2 ・バリアフリーな施設 <p>○サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の量を増やす ・ビデオやCDの視聴 ・夜間ポスト ・検索端末の充実 ・オンラインサービス(在庫確認や予約) ・子どもがまとまった時間を過ごせるサービスやコンテンツ ・お年寄りが孫を連れて利用できるサービス ・フリーWi-fiなどのインターネット環境 ・託児サービス ・座りたくなる椅子や家具などの設置 ・広い読書スペース 	

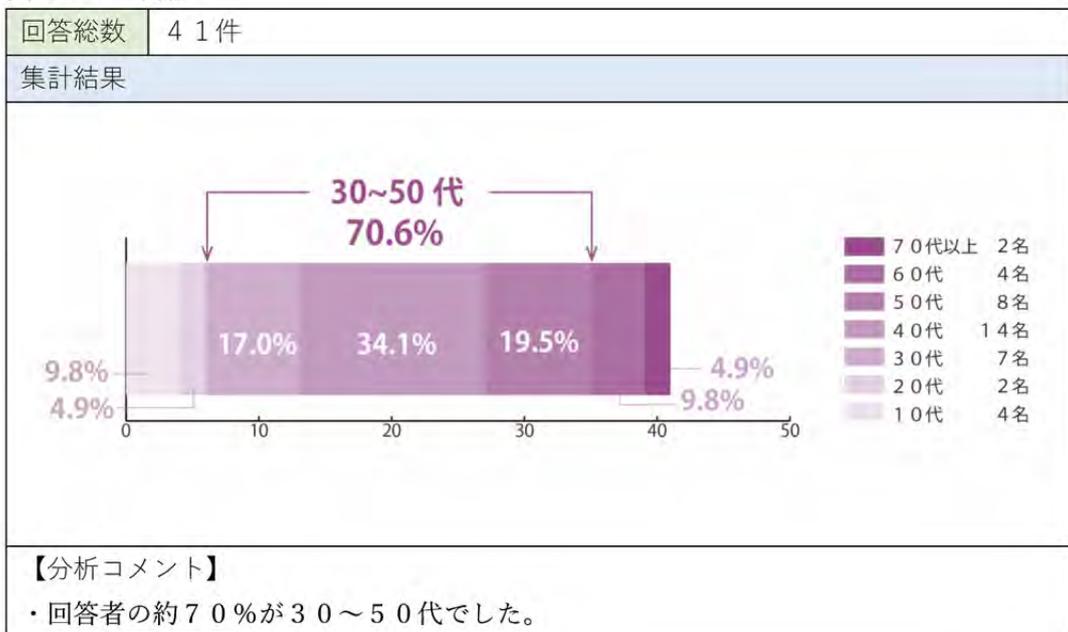
問10 新しい図書館で開催してほしいイベント等

回答総数	25件 (自由記述)
集計結果	
<p>【主なご意見・ご要望】(要約・整理)</p> <p>*数字は同意見の数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の昔話を大人が子どもたちに読み聞かせるようなイベント ・図書館の古くなった本を市民に無償提供したり、市民同士が古本を物々交換するようなイベント ・子ども服などのフリーマーケット(金銭授受の発生しない) ・図書館は「本を読むこと」が目的なので、それを逸脱しない範囲のイベント ・著者トーク会 ・英語で読み聞かせ ・ぬいぐるみお泊まり会(別図書館でやっていたもの) ・子どもに色々な経験をさせられるワークショップ <ul style="list-style-type: none"> *現状では抽選で外れることもあるので、ラインナップが増えてほしい。 ・夜の図書館ツアー ・紙の本だからこそその良さを子どもたちに経験させられるようなイベント ・映画上映会 ・落語会(図書館にまつわる大喜利) ・種子島の環境問題について広く知ってもらうイベント ・親子で楽しめるものづくりワークショップ(季節感のあるもの) ・オススメ本の紹介イベント ・お酒を飲みながらの読書会 ・JAZZ ミュージックライブ ・子ども連れじゃなくても参加しやすいイベント ・島の歴史や文化を分かりやすく教えてくれる講座 	

問 1 1 性別



問 1 2 年齢



問 1 3 お住まいの地域

回答総数	4 1 件				
集計結果					
榕城	上西	下西	国上	伊関	安納
29	0	6	1	0	0
70.8%	0.0%	14.7%	2.4%	0.0%	0.0%
現和	安城	立山	中割	古田	住吉
1	1	0	0	1	0
2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
その他	島内	2	島外	0	
		4.9%		0.0%	
【分析コメント】					
・回答者の70%以上が「榕城校区」にお住まいでした。					

問 1 4 職業

回答総数	4 1 件		
集計結果			
自営業	会社員	公務員・団体職員	家事専業
4	10	11	3
9.8%	24.4%	26.7%	7.3%
パート・アルバイト	学生	無職	その他
7	4	2	0
17.1%	9.8%	4.9%	0.0%
【分析コメント】			
・「公務員・団体職員」が最も多い約27%を占め、「会社員」が約24%でした。			

§ 05. 建設候補地の比較

- 候補地の選定については、市有地や民間所有地を複数比較し、総合的に評価して決定しました。

	候補地A	候補地B	候補地C
所有者	西之表市	西之表市	西之表市
現況	旧榕城中跡地	種子島公設卸売市場	種子島中学校
敷地面積	13,611.00m ²	他事業における候補地のため除外	補助金活用事業が進行中のため除外
都市計画	都市計画区域内		
用途地域	第一種低層住居専用地域		
その他地域・地区			
建蔽率	40%		
容積率	60%		
①立地・環境	◎		
	周辺に様々な機能が集積している		
②面積・形状	◎		
	計画しやすく十分な面積がある		
③用地取得	◎		
	不要		
④計画上の課題	△		
	下記、検討が必要となる ・用途地域の変更 ・開発許可申請 ・埋文調査 ・道路拡幅		
⑤事業性	○		
	期待ができる		
⑥主要地からの距離	◎		
	近く、回遊性が期待できる		
総合評価	◎		

	候補地D	候補地E
所有者	西之表市	民間
現況	老人福祉センター	山林
敷地面積	-	3,086m ²
都市計画	都市計画区域内	都市計画区域外
用途地域	第一種中高層住居専用地域	-
その他地域・地区		
建蔽率	60%	70%
容積率	200%	400%
①立地・環境	○	△
	やや中心市街地から離れるが、落ち着いた周辺環境がある	中心市街地から離れる
②面積・形状	○	△
	やや狭いが、隣地公園との連携が考慮できる	広場等の余剰スペース確保が困難
③用地取得	◎	△
	不要	必要
④計画上の課題	○	△
	・限定的な機能整備となる	・限定的な機能整備となる ・駐車場の確保が課題 ・造成が必要となる
⑤事業性	○	△
	期待ができる	人口密集地から離れており、やや不利
⑥主要地からの距離	○	△
	やや距離があり、工夫が望まれる	距離があり、配慮が必須となる
総合評価	○	△

令和6年度西之表市教育交流施設整備基本構想・基本計画策定業務
多世代交流施設整備基本構想・基本計画

発行 西之表市 企画課

〒891-3193
鹿児島県西之表市西之表7612番地
TEL：0997-22-1111（代表）

令和7年3月